

第2号様式（第6条第1項）

(第1面)  
都市景観協議申出書

令和 4年 11月 14日

(申出先)  
横浜市長住所 東京都渋谷区代々木2丁目1-1  
申出者 氏名 積水ハウス株式会社 東京マンション事業部  
事業部長 迫田秀樹  
電話 03 ( 5302 ) 7711  
住所 東京都港区赤坂9-6-14  
(代理人) 氏名 株式会社坂倉建築研究所 大木健逸  
連絡先 03-3403-3551

横浜市長魅力ある都市景観の創造に関する条例第9条第2項の規定により、次のとおり都市景観協議を申し出ます。

1	都市景観協議地区の名称	山手地区	地区区分の名称	山手町特定地区
2	都市景観形成行為を行う敷地等の位置等	横浜市中区山手町254番4他		
3	都市景観形成行為の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 建築物の建築等 <input type="checkbox"/> 工作物の建設等 <input type="checkbox"/> 開発行為等 <input type="checkbox"/> 屋外広告物の表示若しくは屋外広告物を掲出する物件の設置 <input type="checkbox"/> その他の行為（土地の形質の変更、木竹の伐採、物件の堆積、特定照明、その他〔 〕）		
4	特定都市景観形成行為の該当	(有) ・ 無		
5	都市景観形成行為の着手予定日	令和 5 年 5 月 15 日		
6	都市景観形成行為の完了予定日	令和 7 年 1 月 31 日		
※受付処理欄				
	受付年月日	令和    年    月    日		

- (注意) 1 申出者の住所及び氏名は、法人にあつては主たる事務所の所在地、名称及び代表者の氏名を記入してください。  
2 ※印の欄は、記入しないでください。  
3 魅力ある都市景観を創造するための方針及び行為指針の内容に照らして、必要な事項について記載してください。  
4 同一の敷地等について2以上の種類の行為を行おうとするときは、一の申出書によることができます。  
5 次の図書を添付してください。（行為の種類や規模等により、市長が支障が無いと認める場合は、図書の一部を省略することができます。）  
(1) 位置図（敷地等の位置及び当該敷地等の周辺の状況を表示するもの）  
(2) 当該敷地等及び当該敷地等の周辺の状況を示す写真  
(3) 建築物、工作物、アプローチ、外構及び緑地等の敷地等における配置・整備方針を示すもの  
(4) 街並み等と立面計画との関係を示すもの（市長が認めた種類の行為にあつては、添付を省略することができます。）  
(5) 平面図その他市長が必要と認める図書

(A4)

# A 敷地

## (第2面) 都市景観形成行為の概要

### 1 建築物の建築等

ア 行為の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 増築 <input type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/> 移転	<input type="checkbox"/> 修繕 <input type="checkbox"/> 模様替 <input type="checkbox"/> 色彩変更
イ 用途	共同住宅	
ウ 敷地面積	2,889.57㎡	
エ 高さ(階数)	14.26m (地下 1 階、地上 3 階)	
オ 行為面積	延床面積 増築面積	3,890.00 ㎡ 外観変更面積 ㎡
カ その他		

### 2 工作物の建設等

ア 行為の種類	<input type="checkbox"/> 新設 <input type="checkbox"/> 増築 <input type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/> 移転	<input type="checkbox"/> 修繕 <input type="checkbox"/> 模様替 <input type="checkbox"/> 色彩変更
イ 用途(種類)		
ウ 敷地面積	㎡	
エ 規格(サイズ)		
オ 行為面積	築造面積 ㎡	外観変更面積 ㎡
カ その他		

### 3 開発行為等

ア 区域の面積	㎡
イ 予定建築物の用途	
ウ 法(リ)の高さ	m
エ 敷地面積の最小規模	㎡
オ 木竹の保全等の面積	㎡
カ その他	

### 4 屋外広告物の表示又は屋外広告物を掲出する物件の設置

ア 行為の区分等	<input type="checkbox"/> 自己用 <input type="checkbox"/> 非自己用
	<input type="checkbox"/> 壁面看板 ( 箇所) <input type="checkbox"/> 袖看板 ( 箇所) <input type="checkbox"/> 屋上看板 ( 箇所) <input type="checkbox"/> 広告塔・広告板 ( 箇所) <input type="checkbox"/> その他 ( 、 箇所)
イ 規模(規格/サイズ)等	<input type="checkbox"/> 壁面看板 <input type="checkbox"/> 袖看板 <input type="checkbox"/> 屋上看板 <input type="checkbox"/> 広告塔・広告板 <input type="checkbox"/> その他 ( )
ウ その他	

### 5 その他の行為

ア 行為の種類	
イ 行為の内容	
ウ その他	

(注意) 項目が多い場合は、別紙で提出できます。

(第3面)  
計画趣旨等説明書

敷地特性等の説明

<p>敷地特性や 敷地の周辺状況、 景観的特徴など</p>	<p>[面する道路（主要道路、山手本通りと交わる坂道 等）] 計画地は北側で山手本通り、西側で陣屋坂通りに面しています。</p> <p>[敷地内の景観的特徴のある施設（木竹、ブラフ積み、歴史的建造物 等）] 計画地西側の陣屋坂沿いにブラフ積みがあります。</p> <p>[近接する景観的特徴のある施設（歴史的建造物、公園 等）] 計画地の東側は岩崎博物館で、北西には外国人墓地があります。</p> <p>[眺望の視点場からの眺望の可否] 計画地は視点場からの眺望景観の範囲外です。</p> <p>[敷地内及び隣地との高低差] 計画地内は北端が最も高く、南東端が一番低くなっており約6mの高低差があります。 陣屋坂および南側の隣地は、計画地と比べ最大で6m低くなっています。</p>
---------------------------------------	--

計画趣旨説明

魅力ある都市景観を創造するための方針	配慮すべき「行為指針」		都市景観の形成に関する 申出者の考え方	
方針 I	1 山手地区全域の行為指針	(1) 眺望景観の確保	ア 都市景観協議地区図3に示す「眺望の視点場」からの眺望の魅力を高めるよう、建築物などの壁面の向きや幅、形態、色彩などのデザインを工夫する。	本計画地は視点場からの眺望景観の範囲外です。
		イ 都市景観協議地区図3に示す「眺望の視点場」からの眺望景観を阻害しないよう、工作物は高さやデザインを工夫する。	本計画地は視点場からの眺望景観の範囲外です。	
方針 I 方針 IV		(2) 色彩	建築物などの色彩は、周囲の緑豊かな環境や景観と調和した落ち着いた色彩とする。	街並みに溶け込み緑豊かな周辺環境とも調和するよう、長い経年に耐えうる落ち着いた彩度の低い明色のレンガタイルを主な外装仕上げとして採用します。
方針 V		(3) 屋外広告物	ア 屋外広告物は、都市景観協議地区図3に示す「眺望の視点場」に向かって設置せず、山手の丘からの眺望に十分配慮する。	本計画では屋外広告物はありません。
			イ 魅力的な街路景観を形成するよう、秩序ある広告景観を創出する。	本計画では屋外広告物はありません。

# A 敷地

魅力ある都市景観を創造するための方針	配慮すべき「行為指針」			都市景観の形成に関する 申出者の考え方
方針Ⅱ 方針Ⅲ 方針Ⅳ 方針Ⅴ	2	(1)	ア 街並み形成 (ア) 山手町特定地区の異国情緒ある街並みを継承し、ゆとりある敷地による閑静な住宅地を形成する。 (イ) 山手町特定地区の骨格となる山手本通り及び坂道に沿っては、見通し景観に配慮する。 (ウ) 建築物などは、敷地内の既存樹木を極力保存することを前提とした配置とする。 (エ) 敷地内の緑化により、緑豊かな街並みを創出する。 (オ) 建築物などは、地区の歴史的な景観や街並みに配慮したデザインとする。 (カ) 駐車場及び駐輪場は街並みを阻害しないよう配置やデザインを工夫する。 (キ) 西洋館や歴史的な建造物を改修する場合は、従前の外観を継承したデザインとする。 (ク) 山手本通りに面する敷地以外での飲食店などの営業は避ける。また、山手本通りに面する敷地での飲食店の営業時間は住居専用地域にふさわしい時間帯とし、夜間照明などは周辺に配慮したものとする。	計画建物は重厚感・存在感のある形状とし、道路境界から建物の引きを十分確保した配置とします。敷地境界際には植栽を施すことで、植栽帯越しに建物が垣間見える山手らしい奥行き感のある空間とすることで、ゆとりと高級感をもたらします。 道路との境界際は植栽帯とし建物はセットバックさせることで通りの見通しを確保するとともに、道路からの圧迫感を軽減し奥行の感じられる景観を形成します。建物は敷地境界線に対して角度を付けた配置とし、交差点からの眺望の見通しに配慮します。 敷地内の既存樹木は多くありませんが、敷地北東角に残る大きなクスノキなど、生育状況の良い樹木を選定して保全を行うことで、新植の樹木とともに緑豊かな景観をつくります。 道路境界際には緑豊かな景観をつくります。敷地向かいのブラフ99ガーデンと呼応するように、山手らしい樹種他にも季節ごとに表情が変わる樹木を織り交ぜながら、周辺環境と一体感がある緑のネットワークを形成します。 外壁仕上げのレンガタイルはラフな表面仕上げとすることで、山手らしくモダンでありながらも素材感のあるデザインとします。また、建物ボリュームの雁行により、旧居留地の邸宅のスケール感を継承します。主要な通りに面してはガラスなど透過性のある素材も組み合わせ、地域の顔となるようなパブリック性のあるデザインに配慮します。 駐車場は陣屋坂側から建物地下1階に入庫するよう計画し、駐輪場は建物内の1階に計画し、街並みに車や自転車が極力目立たないように配慮します。 本計画は対象外です。 飲食店等はありません。
方針Ⅳ 方針Ⅴ			イ 屋外広告物 (ア) 山手の歴史的な景観と調和し、閑静な住宅地の環境に配慮した規模、位置、色彩、照明などとする。	本計画には屋外広告物はありません。

(注意) 項目が多い場合は、別紙で提出できます。

(A 4)





# B 敷地

## (第2面) 都市景観形成行為の概要

### 1 建築物の建築等

ア 行為の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 増築 <input type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/> 移転	<input type="checkbox"/> 修繕 <input type="checkbox"/> 模様替 <input type="checkbox"/> 色彩変更
イ 用途	共同住宅	
ウ 敷地面積	2,565.81㎡	
エ 高さ(階数)	13.05m (地下 1 階、地上 3 階)	
オ 行為面積	延床面積 増築面積	3,350.00 ㎡ 外観変更面積 ㎡
カ その他		

### 2 工作物の建設等

ア 行為の種類	<input type="checkbox"/> 新設 <input type="checkbox"/> 増築 <input type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/> 移転	<input type="checkbox"/> 修繕 <input type="checkbox"/> 模様替 <input type="checkbox"/> 色彩変更
イ 用途(種類)		
ウ 敷地面積	㎡	
エ 規格(サイズ)		
オ 行為面積	築造面積 ㎡	外観変更面積 ㎡
カ その他		

### 3 開発行為等

ア 区域の面積	㎡
イ 予定建築物の用途	
ウ 法(リ)の高さ	m
エ 敷地面積の最小規模	㎡
オ 木竹の保全等の面積	㎡
カ その他	

### 4 屋外広告物の表示又は屋外広告物を掲出する物件の設置

ア 行為の区分等	<input type="checkbox"/> 自己用 <input type="checkbox"/> 非自己用
	<input type="checkbox"/> 壁面看板 ( 箇所) <input type="checkbox"/> 袖看板 ( 箇所) <input type="checkbox"/> 屋上看板 ( 箇所) <input type="checkbox"/> 広告塔・広告板 ( 箇所) <input type="checkbox"/> その他 ( 、 箇所)
イ 規模(規格/サイズ)等	<input type="checkbox"/> 壁面看板 <input type="checkbox"/> 袖看板 <input type="checkbox"/> 屋上看板 <input type="checkbox"/> 広告塔・広告板 <input type="checkbox"/> その他 ( )
ウ その他	

### 5 その他の行為

ア 行為の種類	
イ 行為の内容	
ウ その他	

(注意) 項目が多い場合は、別紙で提出できます。

(第3面)  
計画趣旨等説明書

敷地特性等の説明

<p>敷地特性や 敷地の周辺状況、 景観的特徴など</p>	<p>[面する道路（主要道路、山手本通りと交わる坂道 等）] 計画地は北東側で谷戸坂から続く通りに面しています。</p> <p>[敷地内の景観的特徴のある施設（木竹、ブラフ積み、歴史的建造物 等）] 敷地内には景観的特徴のある施設はありません。</p> <p>[近接する景観的特徴のある施設（歴史的建造物、公園 等）] 計画地の北東側の道路向かいにはイギリス館があり、イギリス館を囲むように港の見える丘公園があります。</p> <p>[眺望の視点場からの眺望の可否] 計画地は視点場からの眺望景観の範囲外です。</p> <p>[敷地内及び隣地との高低差] 計画地内は北東端が一番高く、南西端が一番低くなっており約6mの高低差があります。 隣地とは南西側で約2mの高低差があります。</p>
---------------------------------------	--

計画趣旨説明

魅力ある都市景観を創造するための方針		配慮すべき「行為指針」	都市景観の形成に関する 申出者の考え方
方針 I	1 山手地区全域の 行為指針	(1) 眺望景観の確保 ア 都市景観協議地区図3に示す「眺望の視点場」からの眺望の魅力を高めるよう、建築物などの壁面の向きや幅、形態、色彩などのデザインを工夫する。	本計画地は視点場からの眺望景観の範囲外です。
		イ 都市景観協議地区図3に示す「眺望の視点場」からの眺望景観を阻害しないよう、工作物は高さやデザインを工夫する。	本計画地は視点場からの眺望景観の範囲外です。
方針 I 方針 IV	(2) 色彩	建築物などの色彩は、周囲の緑豊かな環境や景観と調和した落ち着いた色彩とする。	街並みに溶け込み緑豊かな周辺環境とも調和するよう、長い経年に耐えうる落ち着いた彩度の低い明色のレンガタイルを主な外装仕上げとして採用します。
方針 V	(3) 屋外広告物	ア 屋外広告物は、都市景観協議地区図3に示す「眺望の視点場」に向かって設置せず、山手の丘からの眺望に十分配慮する。	本計画では屋外広告物はありません。
		イ 魅力的な街路景観を形成するよう、秩序ある広告景観を創出する。	本計画では屋外広告物はありません。

B 敷地

魅力ある都市景観を創造するための方針	配慮すべき「行為指針」			都市景観の形成に関する 申出者の考え方	
方針Ⅱ 方針Ⅲ 方針Ⅳ 方針Ⅴ	2 地区別の行為指針	(1) 山手町特定地区	ア 街並み形成	(ア) 山手町特定地区の異国情緒ある街並みを継承し、ゆとりある敷地による閑静な住宅地を形成する。	計画建物は重厚感・存在感のある形状とし、道路境界から建物の引きを十分確保した配置とします。境界際には植栽を施し、計画地向かいの港の見える丘公園を取り込むガーデンを持つ、ゆとりある計画とします。
(イ) 山手町特定地区の骨格となる山手本通り及び坂道に沿っては、見通し景観に配慮する。				道路との境界際は植栽帯とし通りの見通しを確保するとともに、道路からの圧迫感を軽減し奥行の感じられる景観を形成します。	
(ウ) 建築物などは、敷地内の既存樹木を極力保存することを前提とした配置とする。				本計画地内には既存樹木は基本的にありません。新植の樹木とともに新たな景観をつくります。	
(エ) 敷地内の緑化により、緑豊かな街並みを創出する。				山手らしい樹種の他にも実のなる樹や季節ごとに表情が変わる樹木を織り交ぜながら、周辺環境と一体感がある緑のネットワークを形成します。花を含む地被から高木まで、豊かなグリーンを計画します。	
(オ) 建築物などは、地区の歴史的な景観や街並みに配慮したデザインとする。				向かい合う港の見える丘公園内に建つ洋館の意匠性を尊重します。基壇部と最上階の2層構成とし、一部には回廊を計画します。外壁仕上げのレンガタイルはラフな表面仕上げとすることで、山手らしくモダンでありながらも素材感のある建築デザインとします。	
(カ) 駐車場及び駐輪場は街並みを阻害しないよう配置やデザインを工夫する。				駐車場は前面道路に対して建物裏に回り込むように車路を導き、建物地下1階に入庫するよう計画します。駐輪場も建物内に計画し、街並みに対して自動車・自転車が極力が目立たないように配慮します。	
(キ) 西洋館や歴史的な建造物を改修する場合は、従前の外観を継承したデザインとする。				本計画は対象外です。	
方針Ⅳ 方針Ⅴ			イ 屋外広告物	(ア) 山手の歴史的な景観と調和し、閑静な住宅地の環境に配慮した規模、位置、色彩、照明などとする。	本計画には屋外広告物はありません。

(注意) 項目が多い場合は、別紙で提出できます。

(A 4)



(第2面)  
都市景観形成行為の概要

1 建築物の建築等

ア 行為の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 増築 <input type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/> 移転	<input type="checkbox"/> 修繕 <input type="checkbox"/> 模様替 <input type="checkbox"/> 色彩変更
イ 用途	共同住宅	
ウ 敷地面積	1,195.11㎡	
エ 高さ(階数)	9.98m (地下 階、地上 3 階)	
オ 行為面積	延床面積 増築面積	1,295.00 ㎡ 外観変更面積 ㎡
カ その他		

2 工作物の建設等

ア 行為の種類	<input type="checkbox"/> 新設 <input type="checkbox"/> 増築 <input type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/> 移転	<input type="checkbox"/> 修繕 <input type="checkbox"/> 模様替 <input type="checkbox"/> 色彩変更
イ 用途(種類)		
ウ 敷地面積	㎡	
エ 規格(サイズ)		
オ 行為面積	築造面積 ㎡	外観変更面積 ㎡
カ その他		

3 開発行為等

ア 区域の面積	㎡
イ 予定建築物の用途	
ウ 法(川)の高さ	m
エ 敷地面積の最小規模	㎡
オ 木竹の保全等の面積	㎡
カ その他	

4 屋外広告物の表示又は屋外広告物を掲出する物件の設置

ア 行為の区分等	<input type="checkbox"/> 自己用 <input type="checkbox"/> 非自己用
	<input type="checkbox"/> 壁面看板 ( 箇所) <input type="checkbox"/> 袖看板 ( 箇所) <input type="checkbox"/> 屋上看板 ( 箇所) <input type="checkbox"/> 広告塔・広告板 ( 箇所) <input type="checkbox"/> その他 ( 、 箇所)
イ 規模(規格/サイズ)等	<input type="checkbox"/> 壁面看板 <input type="checkbox"/> 袖看板 <input type="checkbox"/> 屋上看板 <input type="checkbox"/> 広告塔・広告板 <input type="checkbox"/> その他 ( )
ウ その他	

5 その他の行為

ア 行為の種類	
イ 行為の内容	
ウ その他	

(注意) 項目が多い場合は、別紙で提出できます。

(第3面)  
計画趣旨等説明書

敷地特性等の説明

敷地特性や 敷地の周辺状況、 景観的特徴など	[面する道路（主要道路、山手本通りと交わる坂道 等)] 計画地は南側で谷戸坂から続く通りに面しています。 [敷地内の景観的特徴のある施設（木竹、ブラフ積み、歴史的建造物 等)] 敷地内には景観的特徴のある施設はありません。 [近接する景観的特徴のある施設（歴史的建造物、公園 等)] 東側に大韓民国総領事館、北側に神奈川県立神奈川近代文学館と接しています。 [眺望の視点場からの眺望の可否] 計画地は視点場からの眺望景観の範囲外です。 [敷地内及び隣地との高低差] 計画地内は南東端が一番高く、南西端が一番低くなっており約3mの高低差があります。 西側隣地は最大約2m低くなっており、東側隣地は最大約1m高くなっています。北側とは高低差はありません。
------------------------------	---

計画趣旨説明

魅力ある都市景観を創造するための方針		配慮すべき「行為指針」	都市景観の形成に関する 申出者の考え方
方針 I	1 山手地区全域の 行為指針	(1) 眺望景観の確保 ア 都市景観協議地区図3に示す「眺望の視点場」からの眺望の魅力を高めるよう、建築物などの壁面の向きや幅、形態、色彩などのデザインを工夫する。	本計画地は視点場からの眺望景観の範囲外です。
		イ 都市景観協議地区図3に示す「眺望の視点場」からの眺望景観を阻害しないよう、工作物は高さやデザインを工夫する。	本計画地は視点場からの眺望景観の範囲外です。
方針 I 方針 IV	(2) 色彩	建築物などの色彩は、周囲の緑豊かな環境や景観と調和した落ち着いた色彩とする。	街並みに溶け込み緑豊かな周辺環境とも調和するよう、長い経年に耐えうる落ち着いた彩度の低いレンガタイルを主な外装仕上げとして採用します。
方針 V	(3) 屋外広告物	ア 屋外広告物は、都市景観協議地区図3に示す「眺望の視点場」に向かって設置せず、山手の丘からの眺望に十分配慮する。	本計画では屋外広告物はありません。
		イ 魅力的な街路景観を形成するよう、秩序ある広告景観を創出する。	本計画では屋外広告物はありません。

F 敷地

魅力ある都市景観を創造するための方針	配慮すべき「行為指針」			都市景観の形成に関する申出者の考え方	
方針Ⅱ 方針Ⅲ 方針Ⅳ 方針Ⅴ	2 地区別の行為指針	(1) 山手町特定地区	ア 街並み形成	(ア) 山手町特定地区の異国情緒ある街並みを継承し、ゆとりある敷地による閑静な住宅地を形成する。	計画建物は邸宅感・存在感のある形状とし、道路境界から建物の引きを十分確保した配置とします。境界際には植栽を施すことで、植栽帯越しに建物が垣間見える山手らしい奥行き感のある空間とすることで、ゆとりある住宅地を演出します。
(イ) 山手町特定地区の骨格となる山手本通り及び坂道に沿っては、見通し景観に配慮する。				道路との境界際は既存樹を中心とした植栽帯とし通りの見通しを確保するとともに、道路からの圧迫感を軽減し奥行の感じられる景観を形成します。	
(ウ) 建築物などは、敷地内の既存樹木を極力保存することを前提とした配置とする。				敷地内に残されている数本の大きなソメイヨシノなど、地域の記憶となる樹木を残します。新植の樹木とともに魅力的な景観を継承します。新築の建物は、これらの保存樹を避けた配置にて計画を行います。	
(エ) 敷地内の緑化により、緑豊かな街並みを創出する。				道路境界際には既存樹を中心とした緑豊かな景観をつくります。山手らしい樹種の他にも季節ごとに表情が変わる樹木を織り交ぜながら、周辺環境と一体感がある緑のネットワークを形成します。	
(オ) 建築物などは、地区の歴史的な景観や街並みに配慮したデザインとする。				本計画地は従前より植栽が豊かな場所であることから、アースカラーの落ち着いた外装の色見を選択し、敷地内既存樹や背後の近代文学館の森と一体的に調和することを考慮します。外壁仕上げのレンガタイルやバルコニーのルーバーなど、山手らしい素材感のある外観を演出します。	
(カ) 駐車場及び駐輪場は街並みを阻害しないよう配置やデザインを工夫する。				駐車場は谷戸坂から続く通り側から入り、既存のソメイヨシノを中心とした植栽帯により道路からは見えにくいように計画します。駐輪場は建物内の1階に計画し、街並みに車や自転車が極力目立たないように配慮します。	
(キ) 西洋館や歴史的な建造物を改修する場合は、従前の外観を継承したデザインとする。				本計画は対象外です。	
(ク) 山手本通りに面する敷地以外での飲食店などの営業は避ける。また、山手本通りに面する敷地での飲食店の営業時間は住居専用地域にふさわしい時間帯とし、夜間照明などは周辺に配慮したものとする。	飲食店等はありません。				
方針Ⅳ 方針Ⅴ			イ 屋外広告物	(ア) 山手の歴史的な景観と調和し、閑静な住宅地の環境に配慮した規模、位置、色彩、照明などとする。	本計画には屋外広告物はありません。

(注意) 項目が多い場合は、別紙で提出できます。

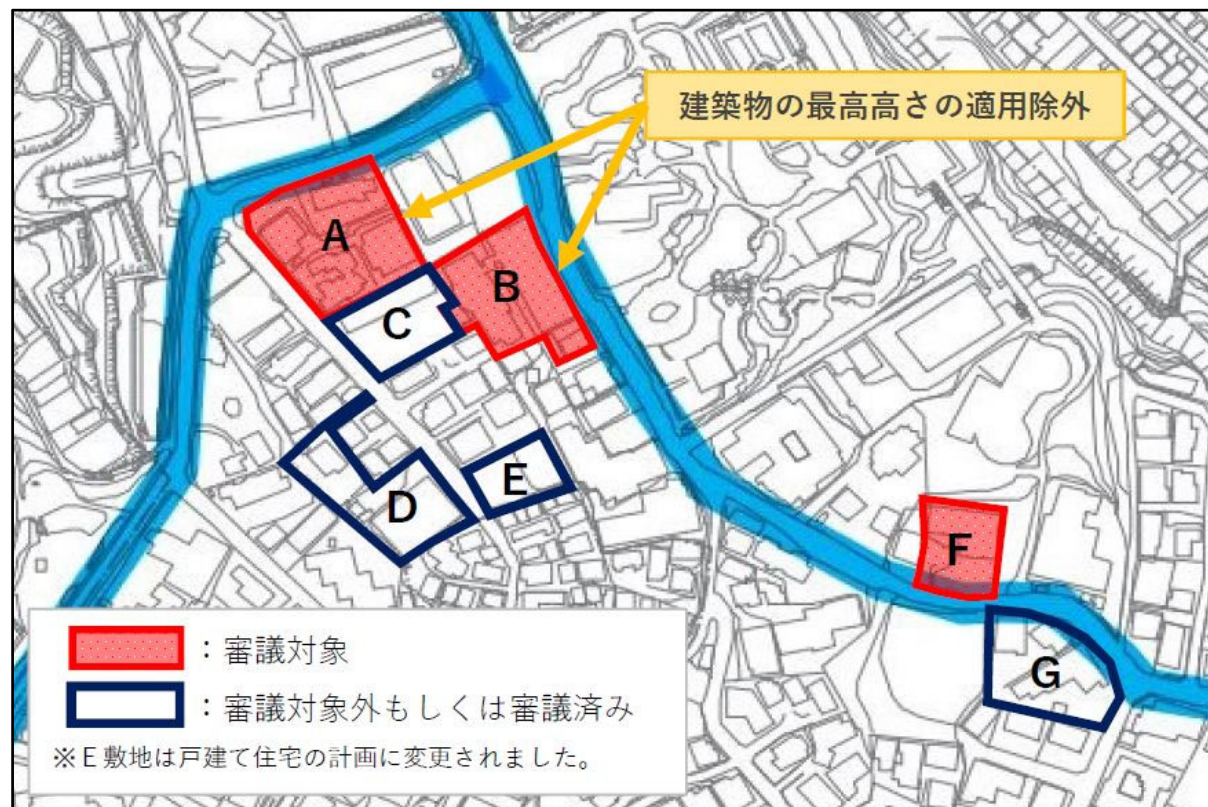
(A4)



## 「(仮称) 横浜山手 I 計画」の都市美対策審議会景観部会での審議について

本件は、山手町において進められている住宅建設事業です。先行しているG敷地の計画については、令和2年12月の都市美対策審議会の景観部会において、A～Gの事業全体の景観形成の方針をお示ししたうえで審議いただき、了承されました。今回は、特定都市景観形成行為に該当するA、B、F敷地について審議をお願いします。

A、B敷地については、横浜市景観計画で定める建築物の最高高さの規定を越える計画となっておりますが、「市長が横浜市都市美対策審議会に意見を聴いた上で、魅力ある都市景観の創造に特に寄与するものと認めた場合」は規定を適用除外とすることができます。本敷地における当該規定の適用について審議をお願いします。



### 山手地区における景観計画で定める建築物の最高高さの制限

#### 第4章 山手地区における景観計画

#### 第2 良好な景観の形成のための行為の制限に関する事項

#### 3 行為の制限

山手地区における景観形成基準は、次のとおりとする。ただし、市長が横浜市都市美対策審議会に意見を聴いた上で、魅力ある都市景観の創造に特に寄与するものと認めた場合は、この限りでない。

#### (3) 最高高さ

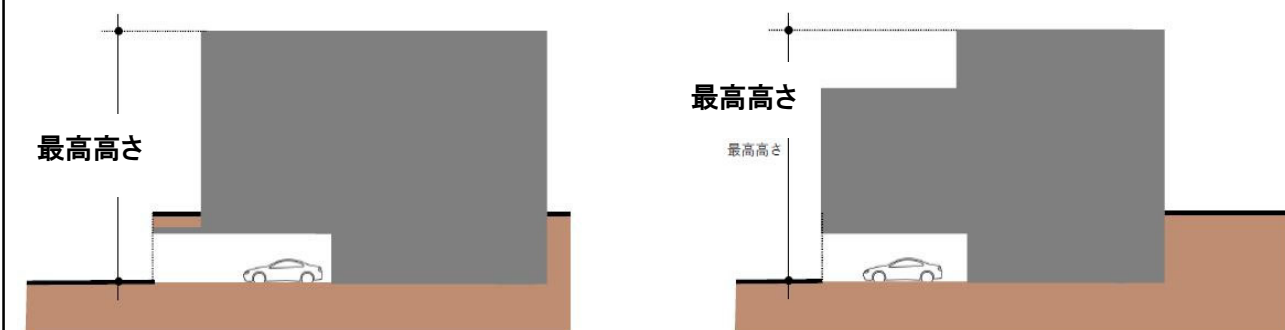
建築物の最高高さは(省略)計画図4の3に示す数値以下とするものとする。(省略)また、計画図4の3に示す斜線のかかる区域における建築物においては、建築物が周囲の地面と接する最も低い位置からの高さで計画図4の3に示す数値以下とするものとする。(省略)

(景観計画抜粋)



(景観図4の3抜粋)

#### 建築物の最高高さの算定方法



【目次】

地域の特性①	- 山手地区の背景の読み込み -
地域の特性②	- 景観計画上の位置づけ -
景観形成の方針	- 全体配置図と手法 -

---

(仮称) 横浜山手 I 計画 景観形成の考え方

SAKAKURA ASSOCIATES  
architects and engineers



地域の特徴① - 山手地区の背景の読み込み -

■歴史の積層を感じる地区

1866年以降、外国人居留地及び駐屯地として栄えてきた山手。西洋館が立ち並び異国情緒溢れた街並みが形成された。現在でも山手にはいくつか洋館が存在し、山手の街並みをつくっている。山下側ではレンガ組積造の建造物が多い一方で、山手においては木造の居住用洋館が点在している。



→抽出される景観要素：  
・ゆったりとした土地区画に、高級感のある邸宅が点在する空間利用

1876 改正横濱案内繪圖 (神奈川県立図書館所蔵)



山手谷戸坂中途から山下居留地をみる (彩色写真・日下部金兵衛) 明治30年代  
山手天沼 (彩色写真・日下部金兵衛) 明治中期  
横浜山手教会堂 (絵はがき) (左記3点: 横浜開港資料館所蔵) 20世紀初頭



現存する洋館  
→抽出される景観要素：  
・明るい色彩壁面のモダンな建物が、前庭の木々の奥に見え隠れする点  
・ファサードは雁行したりポーチ・アルコーブを持つなど、景観としてレイヤーが分かれている点

■緑豊かで塀のない開放的な歩行者空間・公私の境界のあいまいさ

塀がなく建物は道路から引きをとり前庭を設けることで、緑豊かで開放的な街並みを形成している。港の見える丘公園や外人墓地、元町公園のように大きな公園が近くにあり、緑豊かな空間が特徴的である。歩道から使えるベンチなども随所に配置されており、街に開かれた緑がポイントに思われる。



→抽出される景観要素：  
・地域住民の共有財産としての山手の街路や個々の敷地が、緑のネットワークの一員となる点

■山手らしいライフスタイルを生み出す教育・文化施設

本計画地は横浜インターナショナルスクール (1924年創立) の跡地となる。ハード面・ソフト面共に地域に親しまれており、山手に対する憧れ・景観イメージの重要な1要素となっている。



→抽出される景観要素：  
地域の文化形成に寄与する、ライフスタイルが垣間見える施設

■豊かで緩やかな起伏と、石積みの擁壁処理

山手町は塀がなく、生垣程度で豊かな前庭があり、私有地であっても空地を活かした庭園は緑豊かである。また、起伏があるので擁壁の存在感がある。擁壁積みの代表的な手法は居留地時代の房州石ブラフ積みだが、近年では小端積み等も見られ、美しい景観の1要素となっている。



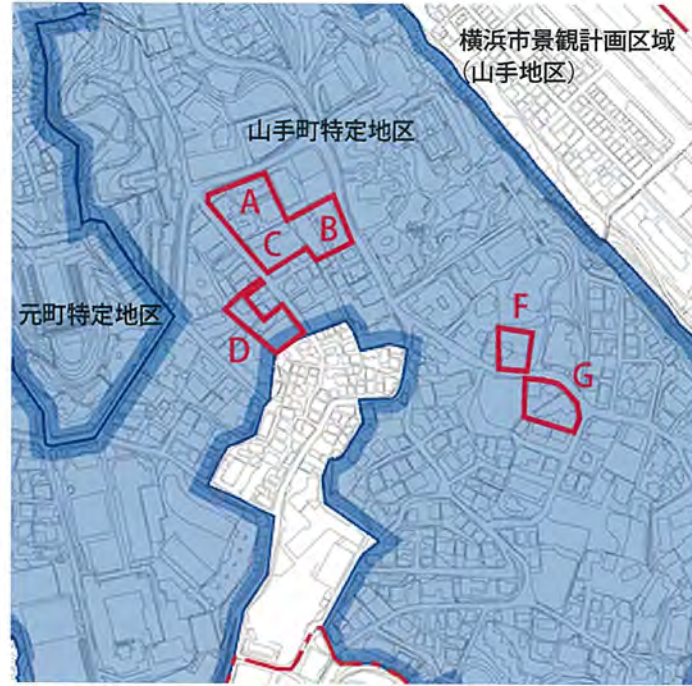
→抽出される景観要素：  
・街の起伏を、天然の石積みで高低差のファサードとして修景する



地域の特徴② - 景観計画上の位置づけ -

【横浜市景観計画（山手地区）】，【山手地区都市景観協議地区】

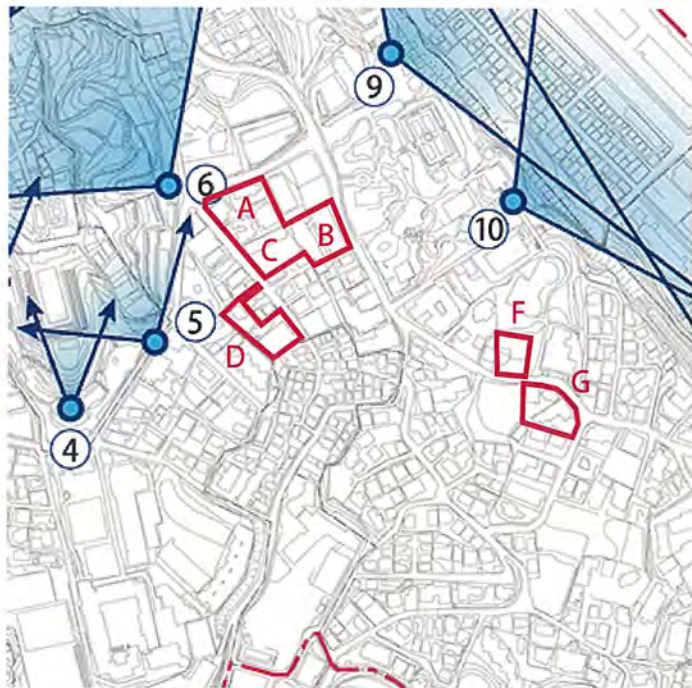
横浜市景観計画 : 「計画図4の1」  
山手地区都市景観協議地区 : 「都市景観協議地区図1」 より抜粋



■全計画地ともに「横浜市景観計画区域（山手地区）」のうち「山手町特定地区」に属している

【眺望景観】

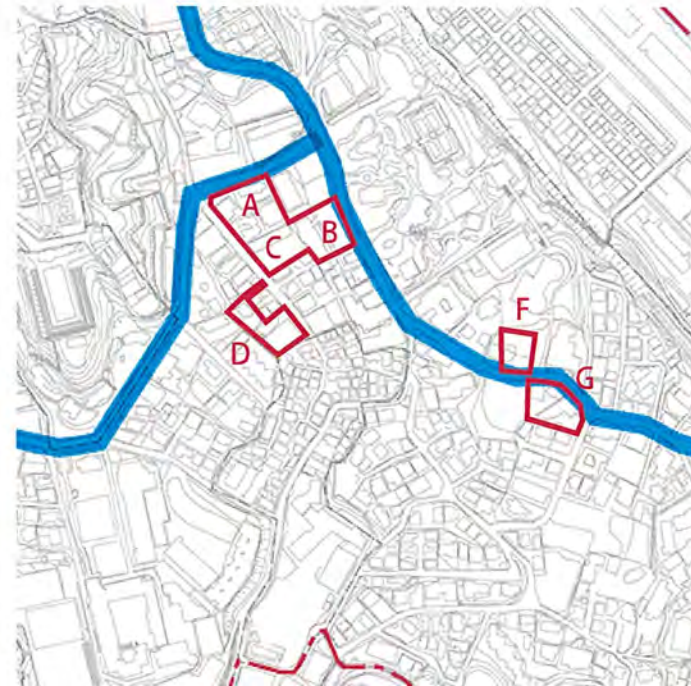
横浜市景観計画 : 「計画図4の2」  
山手地区都市景観協議地区 : 「都市景観協議地区図3」 より抜粋



■全計画地ともに眺望の視点場からの眺望景観の範囲外である

【主要道路】

山手地区都市景観協議地区 : 「都市景観協議地区図2」 より抜粋



■主要道路に面する敷地 A,B,F,G について  
建築面積が 400 m<sup>2</sup> を超える場合は「特定都市景観形成行為」に該当する  
上記以外の敷地 C,D,E については都市景観協議地区内に位置するため  
建築面積が 1000 m<sup>2</sup> を超える場合は「特定都市景観形成行為」に該当する

※「特定都市景観形成行為」を行おうとする場合、  
横浜市都市美対策審議会の意見を聞いて協議を進める

【建築物の最高高さ】

横浜市景観計画 : 「計画図4の3」 より抜粋



■全計画地ともに「建築物の最高高さ 10m 以下」  
(建築物の最高高さは建築物が地面と接する最も低い位置からの高さとする) に属している

山手地区における景観計画、山手地区都市景観協議地区

■魅力ある都市景観を創造するための方針

・山手地区全域

- I 山手の丘から港や市街地への良好な眺望を保全し、ミナト横浜を感じる眺望景観の形成を図る
- II 樹木やまとまりのある緑の保全により、緑豊かな地区の環境を維持する
- III 居留地時代から継承された歴史的な建造物や土木遺構などによる歴史や異国情緒を感じる景観を保全し、活用する
- IV 緑豊かでゆとりと落ち着きのある街並みを形成する
- V 地区ごとに魅力ある通りを軸線とした、歩いて楽しめる歩行者空間を形成する

・山手町特定地区

- A 旧外国人居留地として形成された街の歴史や文化を継承し、ゆとりある敷地と緑豊かな街並みを形成する
- I 住宅・文教地区としての良好な環境を保全し、来街者も歩いて楽しめる歩行者空間を形成する

■山手地区全域ガイドライン

- 眺望景観を地区の重要な景観資源として保全し、魅力ある景観形成を図ります。(計画図4の2)
  - ・眺望の視点場から眺望対象への見通しについて、建築物・工作物等で阻害しないこと。
  - ・建築物・工作物等の形態意匠について、眺望景観を阻害せず、魅力を高めるようなものとする。
  - ・眺望の視点場周辺では、眺望の魅力が引き立つよう、建築物・工作物等の設けに配慮すること。
  - ・各視点場からの眺望を守るために、建築物の高さの制限を定めます。(計画図4の3)
  - ・丘の上からの眺望を阻害しないよう、屋外広告物の設置等について制限を行います。
- 色彩に関する事項を定め、落ち着きのある街並み景観を形成します。
- 樹木・緑地の保全について定め、緑豊かな山手地区の環境を守ります。
- 屋外広告物について、魅力的な街路景観を形成するよう、秩序ある広告景観を創出する。
- 歴史的建造物の保全・活用や、歴史的な街並み形成についての基準を定めています。
- 壁面後退をすることにより歩行者空間を確保し、賑わいを形成してきた街並みを、今後も継承していきます。

■山手町特定地区ガイドライン




- 街並みの継承、飲食店などの営業等
- 山手本通り沿いの見通し景観、坂道の見通し景観
- 道路沿いの緑化、敷地内の緑化
- プラフ積等の歴史的な土木遺構の保全・継承、歴史的建造物の保全・歴史的な景観に配慮したデザイン
- 駐車場・駐輪場の設けの工夫、ゴミ置場・自動販売機の配置と設え
- 住宅地にふさわしい屋外広告物の掲出

※山手地区都市景観形成ガイドラインより抜粋



# 景観形成の方針 全体配置図と手法

- ①道路境界からの建物の引き・奥行きを重視し、旧居留地の邸宅のスケール感を継承します。
- ②セキュリティラインを工夫し、歩行者空間の拡張により余裕のある地域景観に寄与します。
- ③周辺の公園等を結ぶように、既存と新植の緑のネットワークを繋ぎます。

 主な既存樹木がアイストップとなる箇所  
 緑のネットワーク  
 各敷地セキュリティライン





■提案：新築建物のデザインの要素と、敷地毎の特徴付け

街並みスケール：形態

●敷地毎の立地周辺環境による形態要素

落ち着き・塊感・  
陰影・プライベート

F/G 敷地 ●



シンボルツリーと  
塊感のある建築の組合せ

経年優화를期待する  
本物の素材

D 敷地 ●



風の通る  
軒下空間

C 敷地 ●



視線の抜けと  
奥行の見え隠れ

B 敷地 ●



透過性を  
もたらずゲート・  
キャンपी

A 敷地 ●



光を通すファサード

軽快さ・透明感・  
明るさ・パブリック

ヒューマンスケール：素材

●時代を超えて親しまれるような、肌触りのある外装素材を  
アクセントとして採用



歴史的、土地的要素：モチーフ

●山手の景観構成要素である石・鉄・水・緑





景観形成の方針 敷地ごとの特性を踏まえ、山手の地の邸宅の雰囲気に沿う、デザインの多様性を現代の技術と素材で展開します。

**A 敷地** 交差点に対して引きを取り、広いパブリックスペースを創出 雁行ボリュームの群造形  
景観上の  
主要道路沿い



基壇部と最上階の2層構成 港の見える丘公園を取り込むガーデン



**B 敷地** 景観上の  
主要道路沿い

**F 敷地** 既存植栽を尊重し、周辺の緑と調和する外装・外構  
景観上の  
主要道路沿い



建物の引きと奥行きを重視し、旧居留地の邸宅のスケールの継承



**G 敷地** 景観上の  
主要道路沿い

**C 敷地** ゲートと植栽で陣屋坂を修景する、コンパクトで陰影のあるボリューム  
景観上の  
主要道路沿い



陣屋坂と擁壁の地形を取り込みつつ、明るく浮遊感のあるエントランスを演出



**D 敷地**



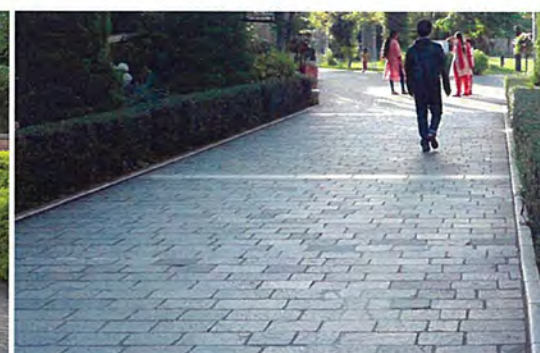
- 交差点を重要な視点場とした、軸線及び配棟計画を行います。
- 向かいのブラフ 99 ガーデンのランドスケープに呼応した、有機的な歩道状空地の整備と建物のセットバックを行います。
- 「丘の上の水源」をモチーフに視覚と聴覚で景観に寄与する水景をつくります。横断歩道からの視線・動線を受ける入り組んだ散策路に沿った水景です。



山手本通り側：  
ブラフ 99 ガーデン交差点側より



元町公園に  
呼応した水景



前面歩道・アメリカ山公園に  
呼応した舗装



ブラフ 99 ガーデンに  
呼応した植栽帯・遊歩道



N  
Scale 1/400

岩崎ミュージアム側では、  
隣地建物の壁面線やその角度を  
尊重し揃えます。

既存高木(クスノキ)  
の保存を前提とした  
隣地と連続した修景

向かいのランドスケープに呼応した、  
有機的な歩道状空地の整備と  
建物のセットバック

圧迫感を軽減し、  
植栽の厚みにも変化を与える  
建物輪郭の雁行

向かいの99ガーデン  
を一体のオープンスペース  
と捉え、交差点に隣接した  
大きな散策空間として演出する

スリットを設けた  
分割ボリューム

交差点を重要な視点場とした、  
軸線及び配線計画

公園に面した  
緑のまとまり

横断歩道からの  
視線・動線を受ける  
入り組んだ散策路と  
正面の緑

「丘の上の水源」をモチーフに  
視覚と聴覚で  
景観に寄与する水景

交差点近傍には住戸では無く  
ラウンジなどの共用部を計画し  
山手らしいゆとりあるライフスタイルを景観化

主要道路から目立たない  
地下駐車場

AC敷地を連続する、  
歩道拡張の整備と  
擁壁をセットバックし  
手前に植栽による修景

山手通りからの軸線上に、  
建物奥もシンボルツリーを植えることにより  
景観上の視線の抜けを創出

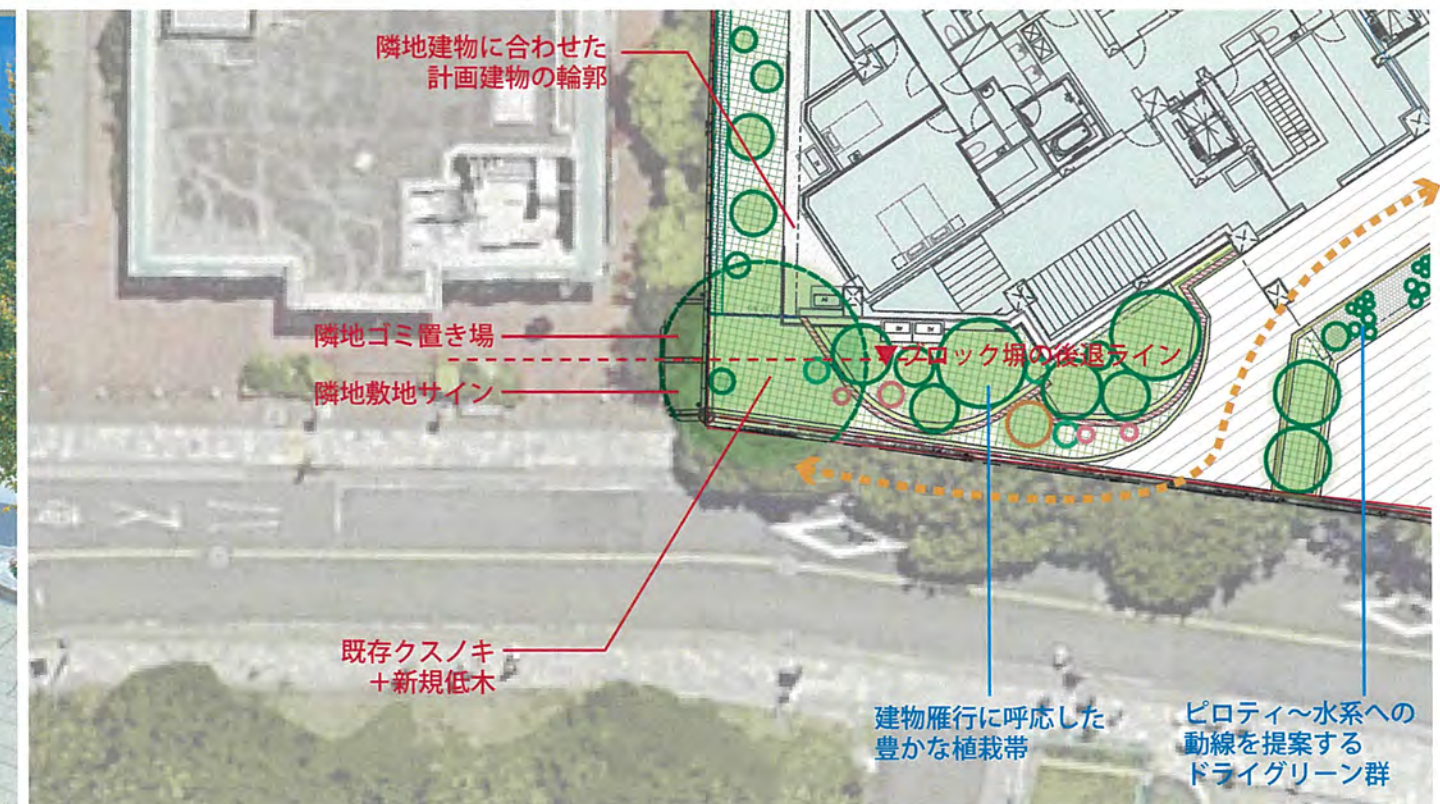




港の見える丘公園側隣地との連続感をもたらす目的で、隣地との境界線を後退させ、植栽で修景します。  
道行く人々にとっての魅力的な景観の一角を形成します。  
町並み及び壁面に配慮し、隣地建物に接した部分では計画建物の雁行ボリューム端部の角度を隣地と揃えます。



山手本通り側：  
港の見える丘公園側より



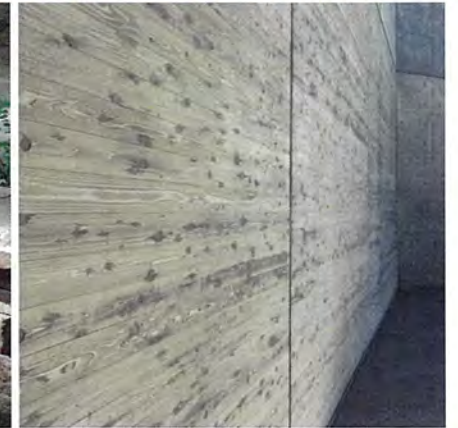


■陣屋坂沿いの高低差は、擁壁のセットバックと多段緑化により修景します。多様な植栽が圧迫感を軽減しつつ、目立たない位置に地下駐車場を設けます。

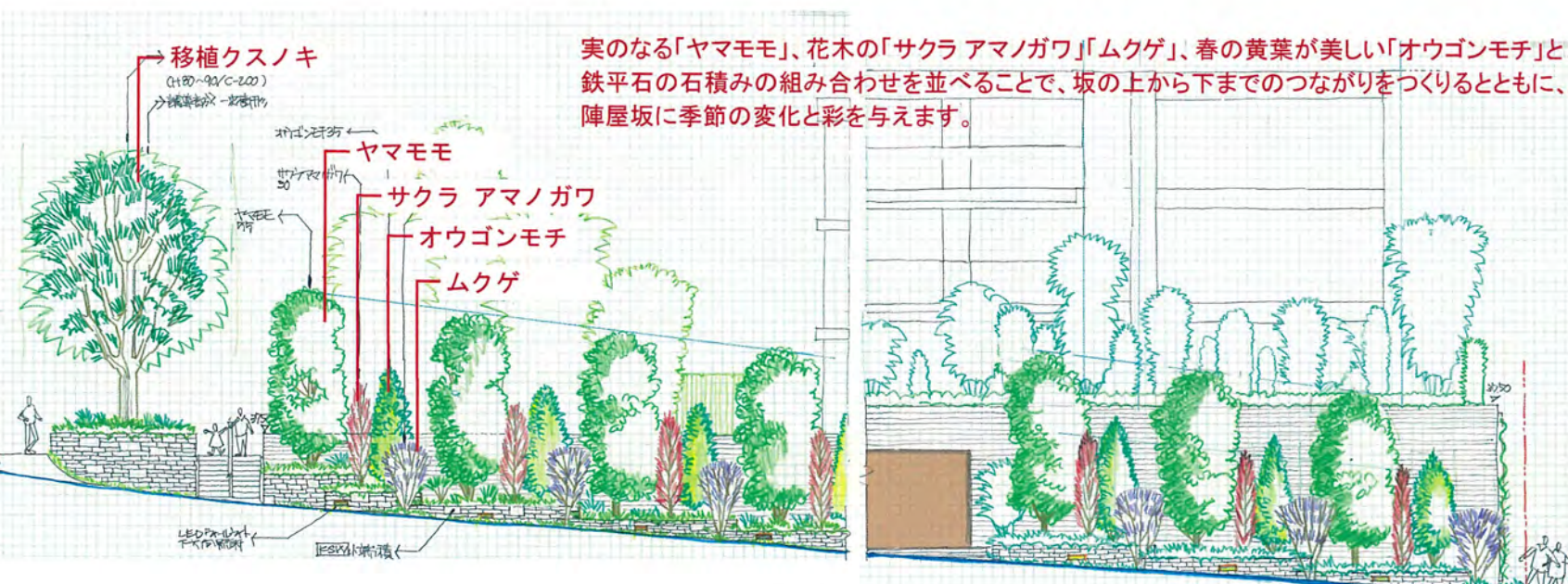
自然素材を活かした擁壁鉛直面の表情が、起伏のある地形に親しみやすさをもたらします。



鉄平石小端積み

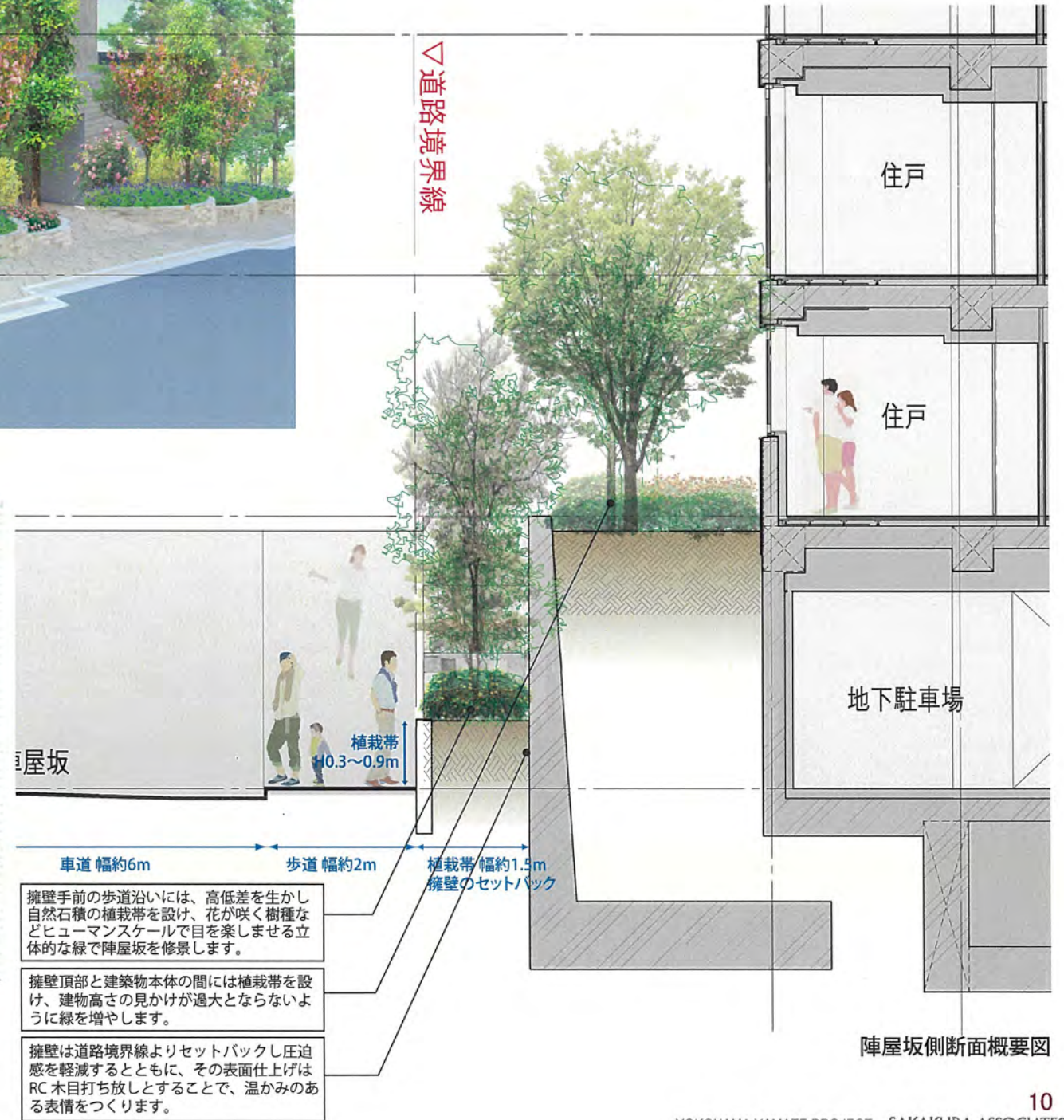


RC 本実打放し



坂上

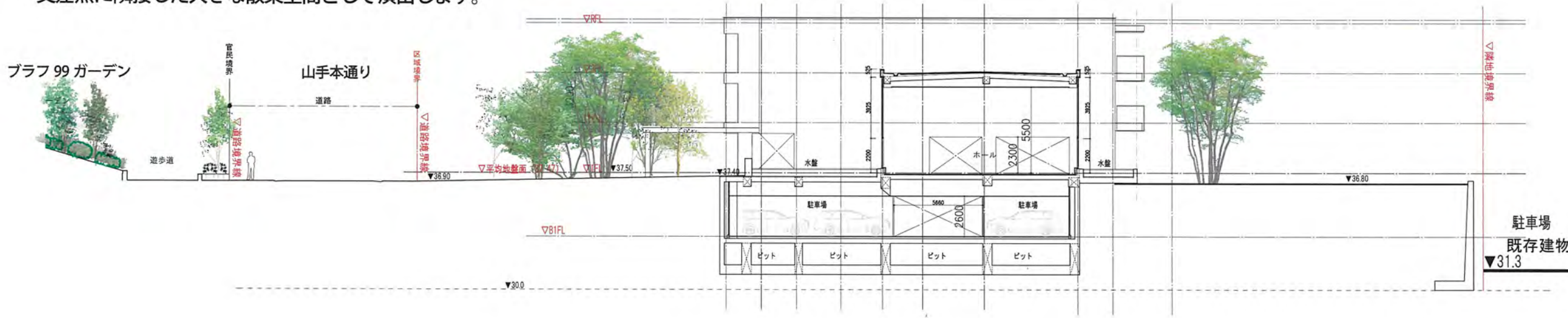
坂下  
elevation image



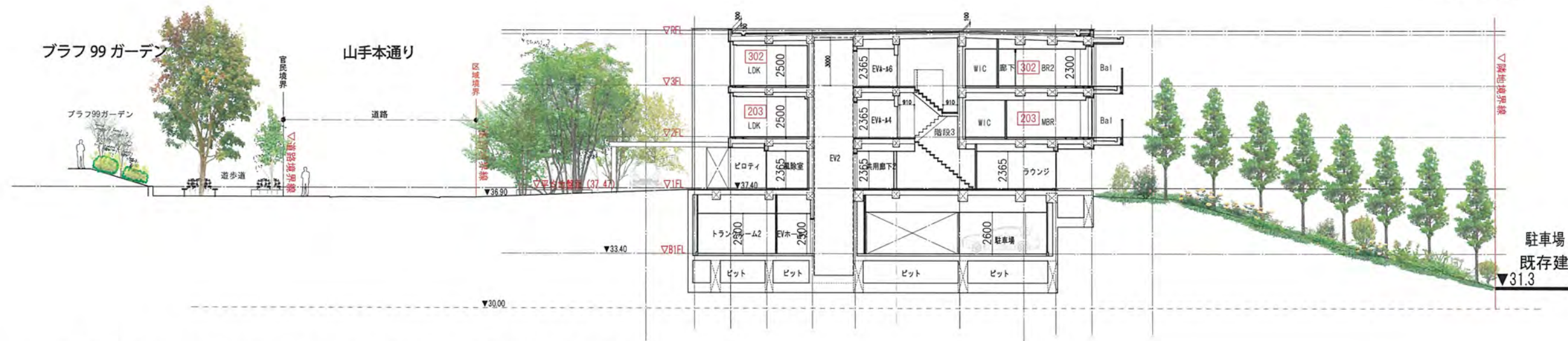
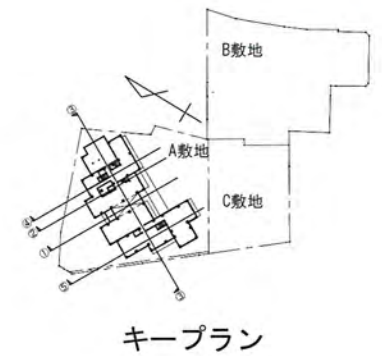


# 景観形成の計画

向かいのブラフ 99 ガーデンを一体のオープンスペースと捉え、  
交差点に隣接した大きな散策空間として演出します。



断面図-①



断面図-②

陣屋坂沿いの高低差は、擁壁のセットバックと多段緑化により修景します。  
多様な植栽が圧迫感を軽減しつつ、目立たない位置に地下駐車場を設けます。



南側立面図

A敷地断面図・立面図  
S=1/300



植栽計画 近隣景観への融合と敷地内への誘導

ブラフ99ガーデンや外国人墓地などの特徴的な樹木を敷地内に取り込み、地域としての景観の融合をはかります。敷地内においても、景観樹や花木を連続させることで、歩行者を誘導し、歩きやすい空間づくりを行います。

果樹・特殊樹による誘導

敷地外計画公園  
ナツミカン

敷地内  
良型柑橘類  
良型オリーブ  
ドライガーデン

景観樹の連続

敷地外  
ブラフ99ガーデン景観樹  
外人墓地大径樹

敷地内  
境界既存保存樹  
D敷地移植大径樹

花木による誘導

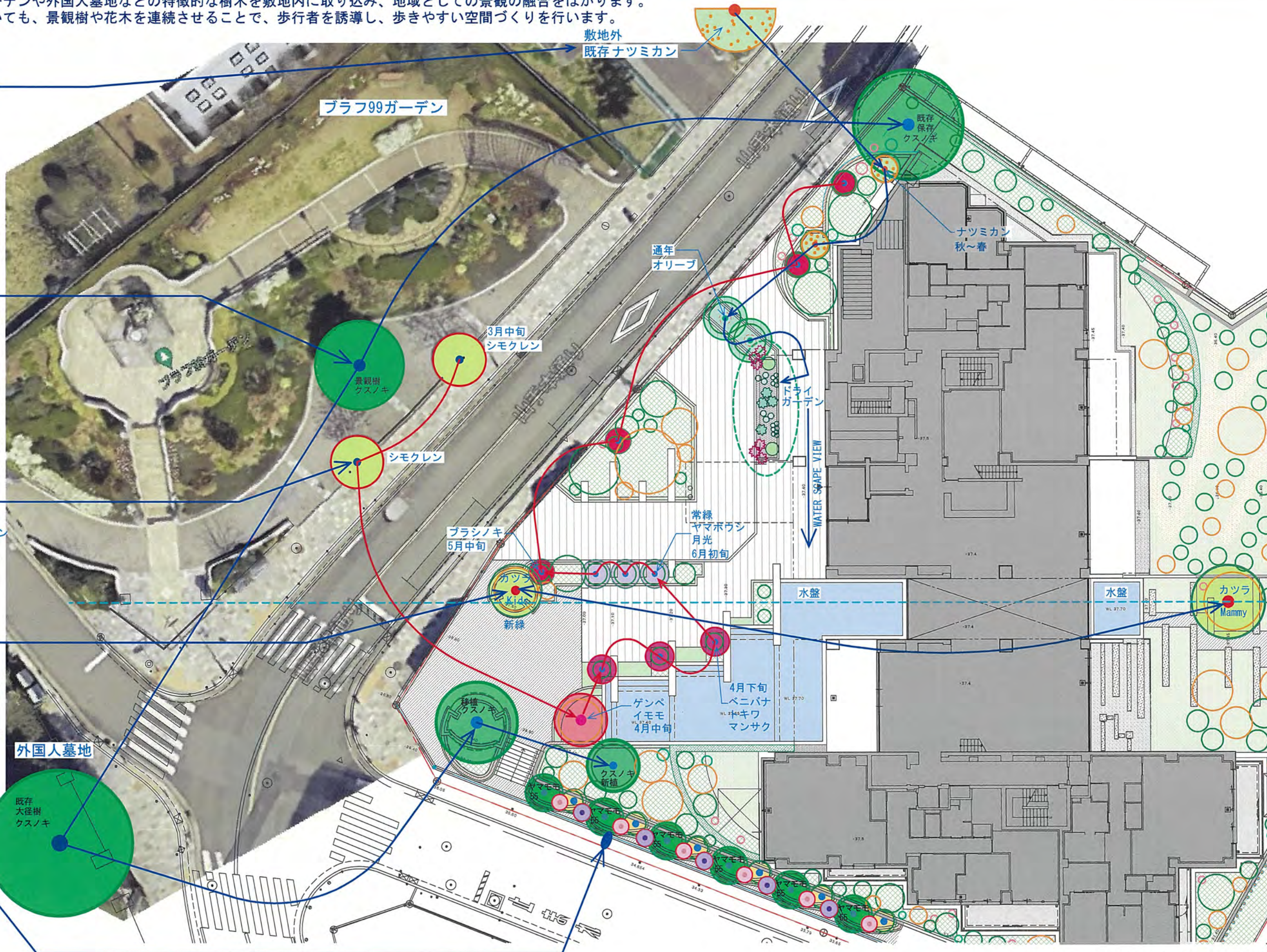
敷地外  
ブラフ99ガーデン シモクレン  
敷地内  
ゲンベイモモ良型  
ベニバナトキワマンサク  
常緑ヤマボウシ月光  
ブラシノキ

樹木による  
建築正面/裏の結び付け

正面  
カツラ単冠8m内外-Kid's Tree  
ガーデン側  
カツラ株立9m内外-Mother Tree  
(子と母の樹)

陣屋坂の景

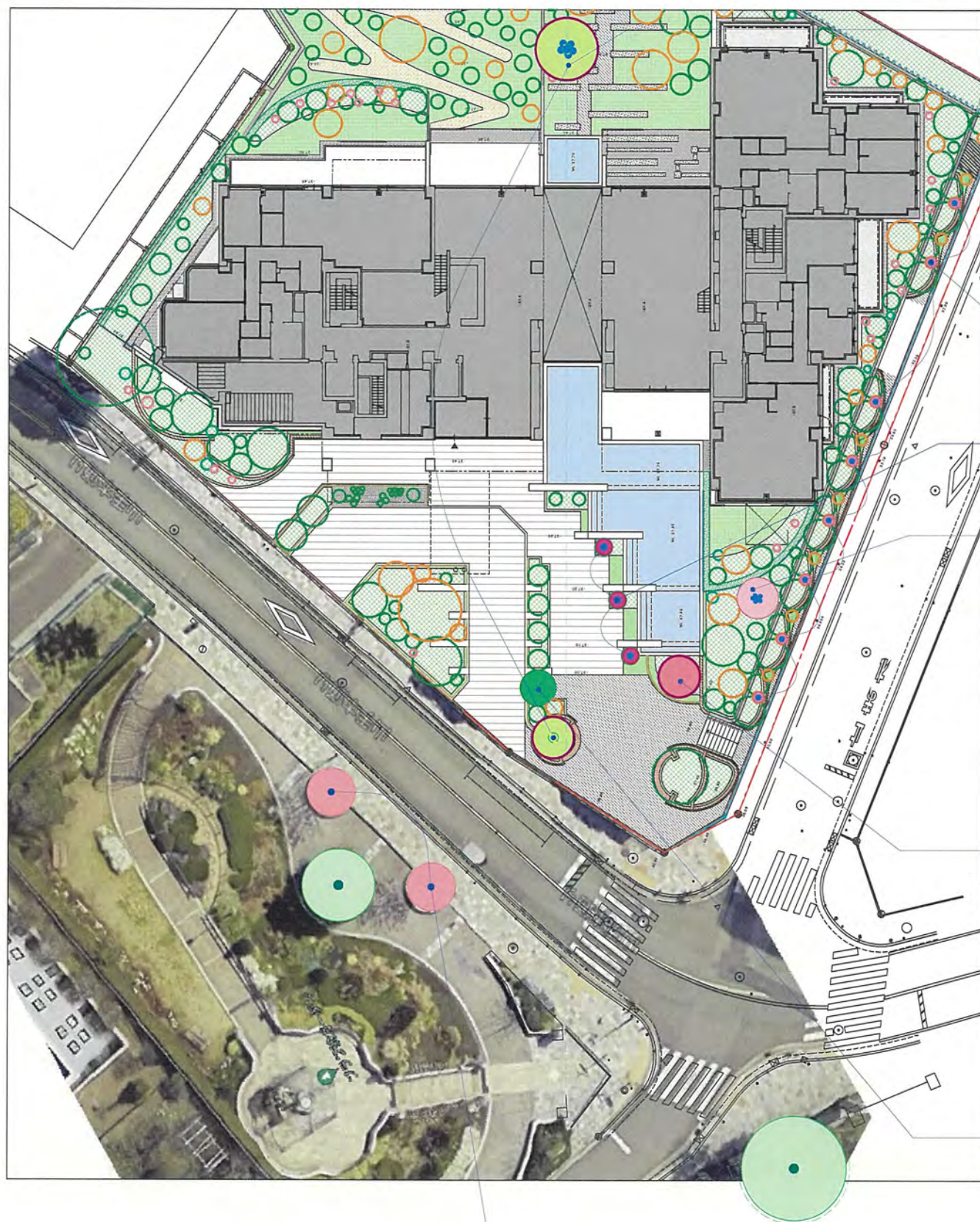
主要木  
ヤマモモ・黄金モチ  
花木の連続  
春：サクラアノガワ  
夏：ムクゲ(薄紫)





樹木暦① 春の花と新緑のリレー

早春のブラフ99ガーデンのシモクレンの開花から始まり、サクラやモモの花、カツラの新緑と春のリレーを展開します。



建物を跨ぎ  
樹木の景を  
繋げる  
カツラ新緑

サクラアマノガワ  
立性樹形

ベニバナトキワ  
マンサク

ヤマザクラ

傘型美樹形  
白・赤・桃色花  
ゲンペイモモ

オガタマノキ

敷地外  
ブラフ99ガーデン  
シモクレン



カツラ広場側-起点



カツラ中庭-緑の繋がり



カツラ新緑



敷地外  
ブラフ99ガーデン  
シモクレン



ゲンペイモモ



ヤマザクラ株立 開花



サクラアマノガワ



ベニバナトキワマンサク



オガタマノキ



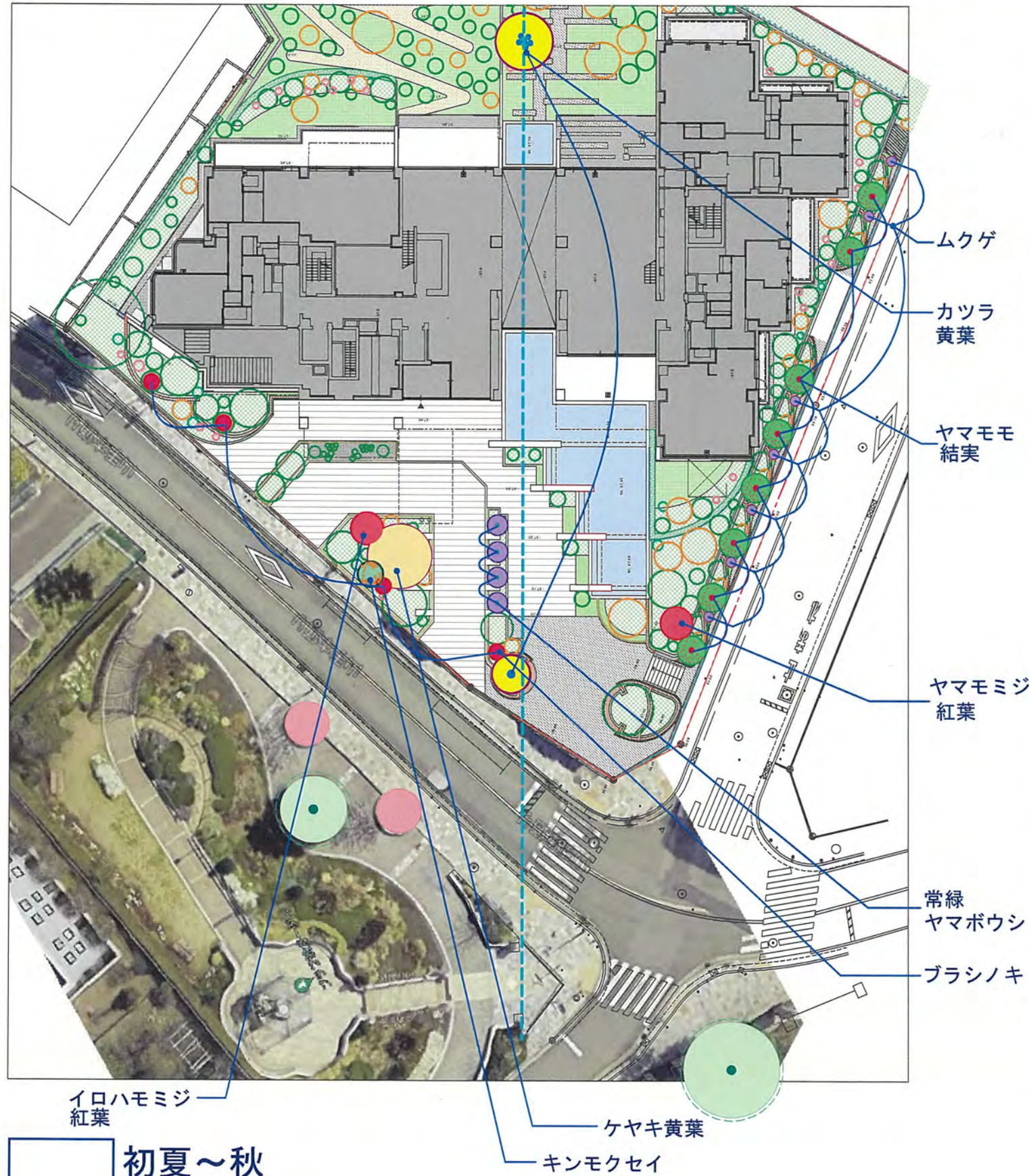
春

A棟 Planting-01



樹木暦② 初夏～秋の花と紅葉のリレー

初夏のヤマボウシ、ブラシノキの花からムクゲの花、秋のキンモクセイの花と香りやモミジの紅葉と夏～秋のリレーを展開します。



ブラシノキ



常緑ヤマボウシ



ヤマモモ 結実



ムクゲ



キンモクセイ



イロハモミジ 紅葉



ヤマモミジ 紅葉



カツラ黄葉



ケヤキ黄葉

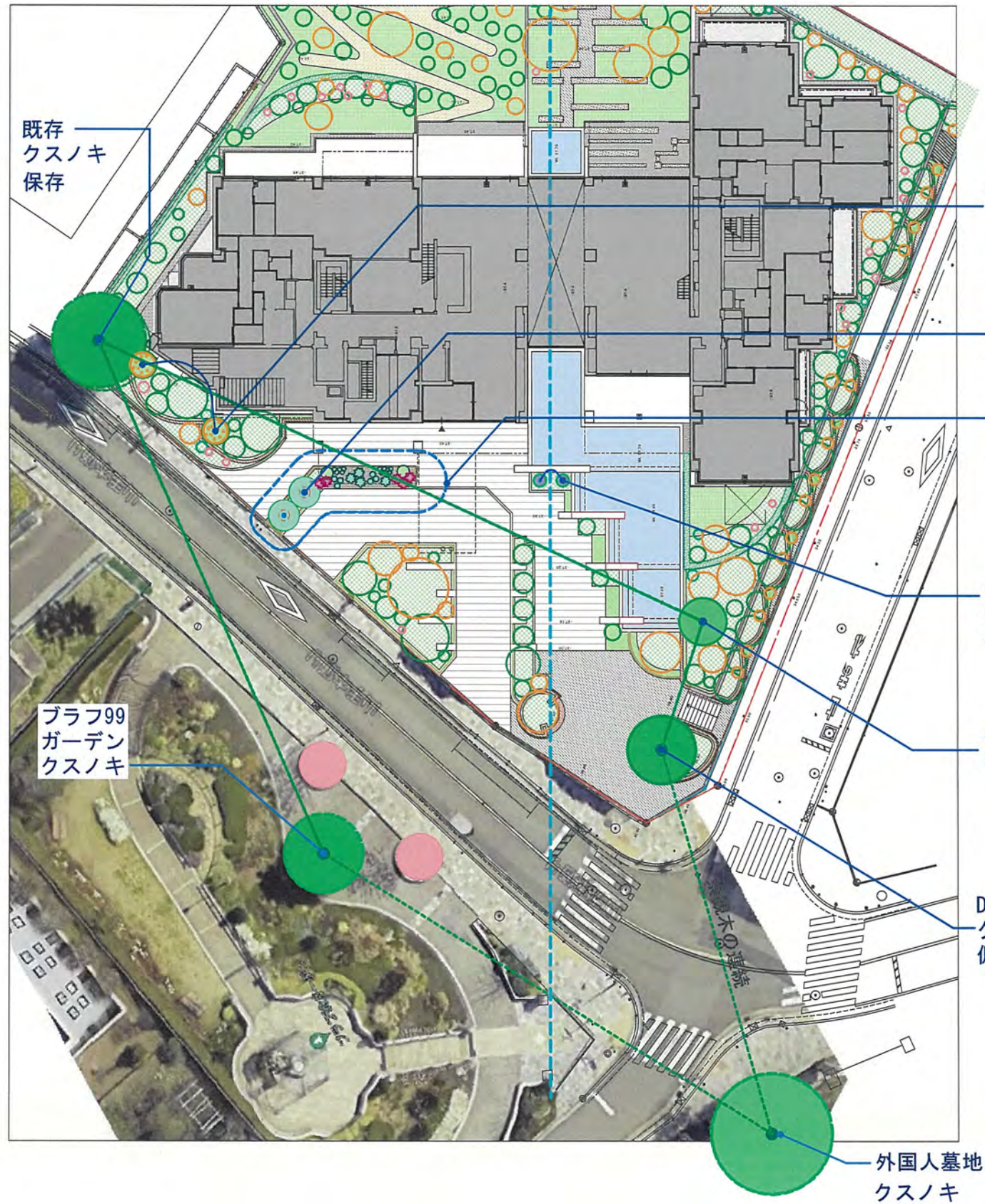
初夏～秋  
A棟 Planting-02



景観形成の方針 全体配置図と手法

樹木暦③ 景観の連続と冬の景

外国人墓地とブラフ99ガーデンのクスノキと呼応する移植と新植のクスノキを敷地内に植えて、周辺景観との連続性をつくります。  
また、冬に実がつくナツミカン、花が咲くゴードニア、葉色が美しいドライガーデンプランツにより、冬の景に彩を与えます。



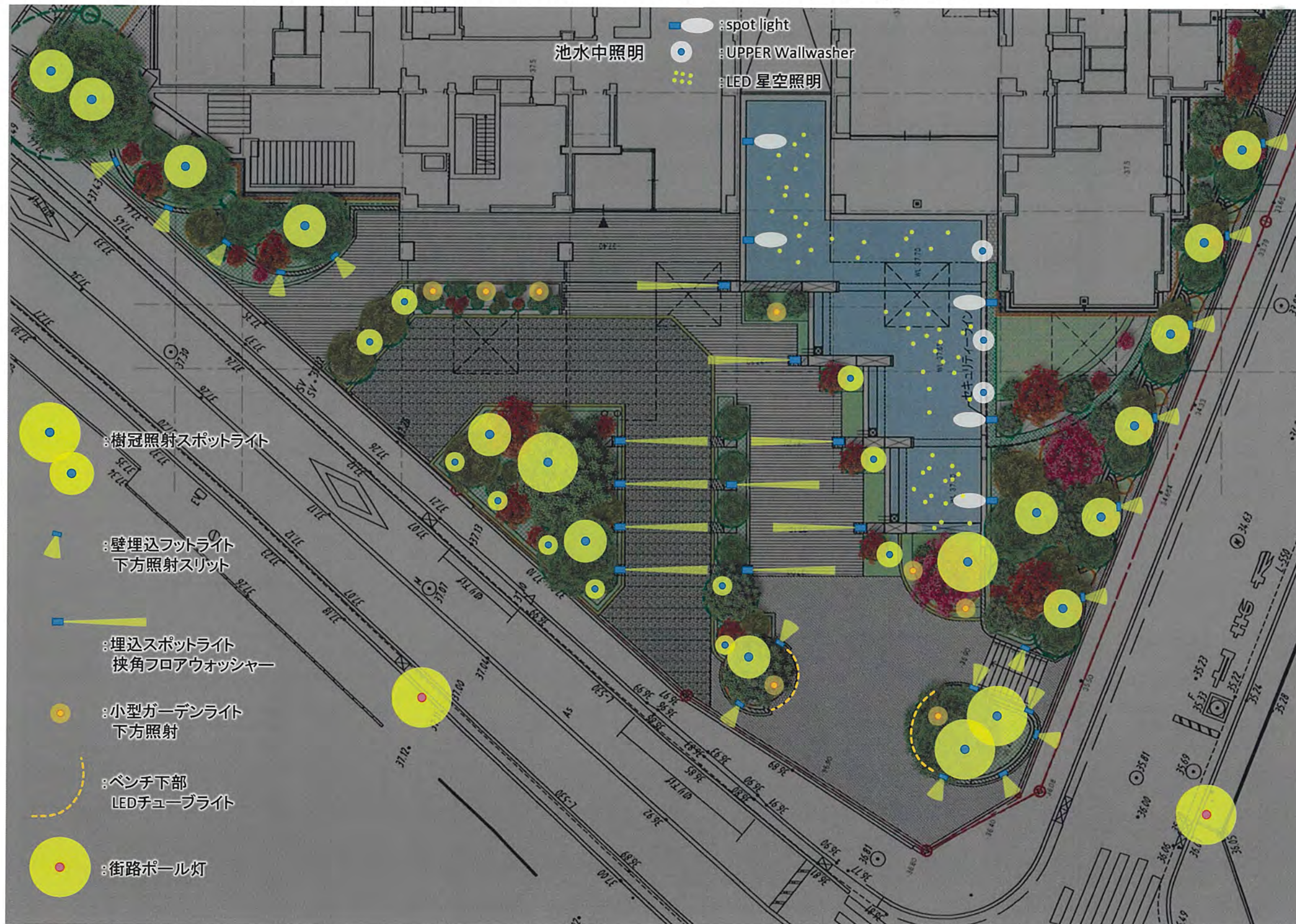
クスノキ 景観木の連毒と継承



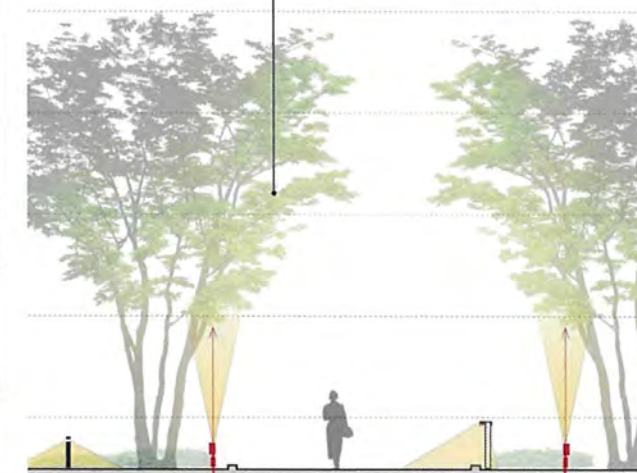
冬・景観の連続と継承  
A棟 Planting-03



豊かな植栽を活かして、足元からのスポット照明を高木に当て、間接照明の様な柔らかい光で歩道に明るさをもたらします。まぶしさを抑え、やさしく景観に浮かび上がる安全な夜間照明を計画します。  
A敷地の特徴である水盤では、水中照明を用いることで、丘の上の山手の顔として、昼夜問わず町並みを演出します。



樹木のライトアップ  
鉛直面輝度で明るさをつくる



植栽を活かした照明手法イメージ



水盤の水中照明イメージ

A棟北広場 外部照明検討図

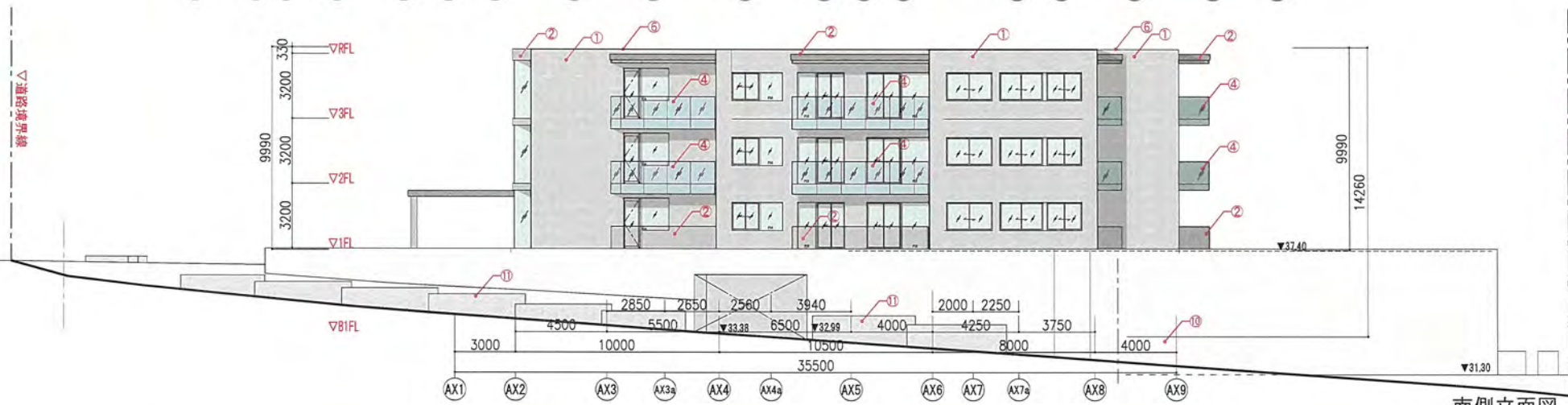




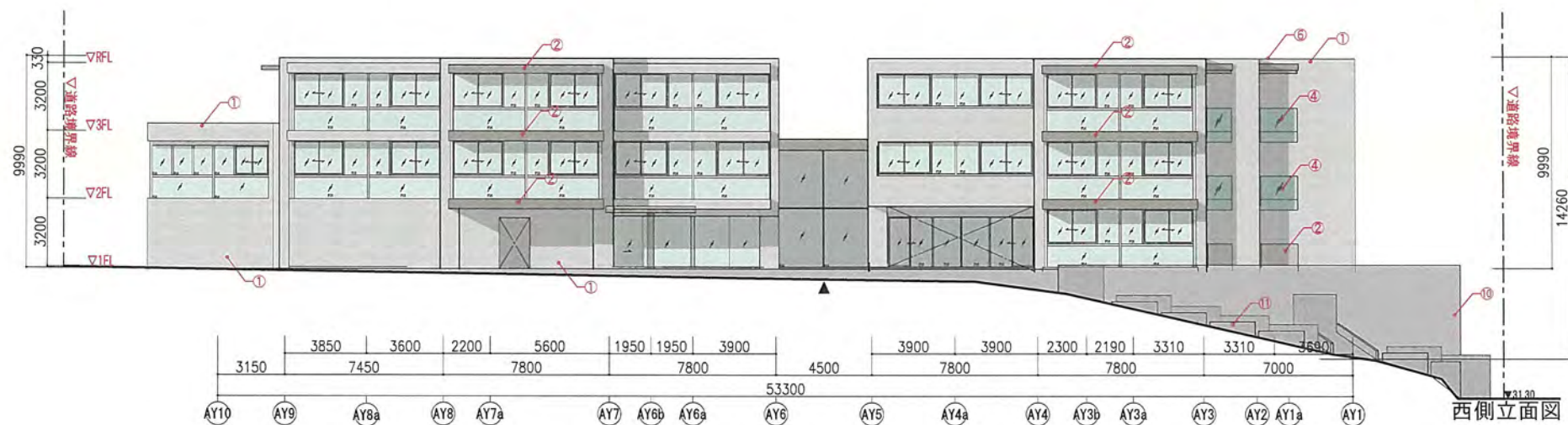
北側立面図



東側立面図



南側立面図



西側立面図

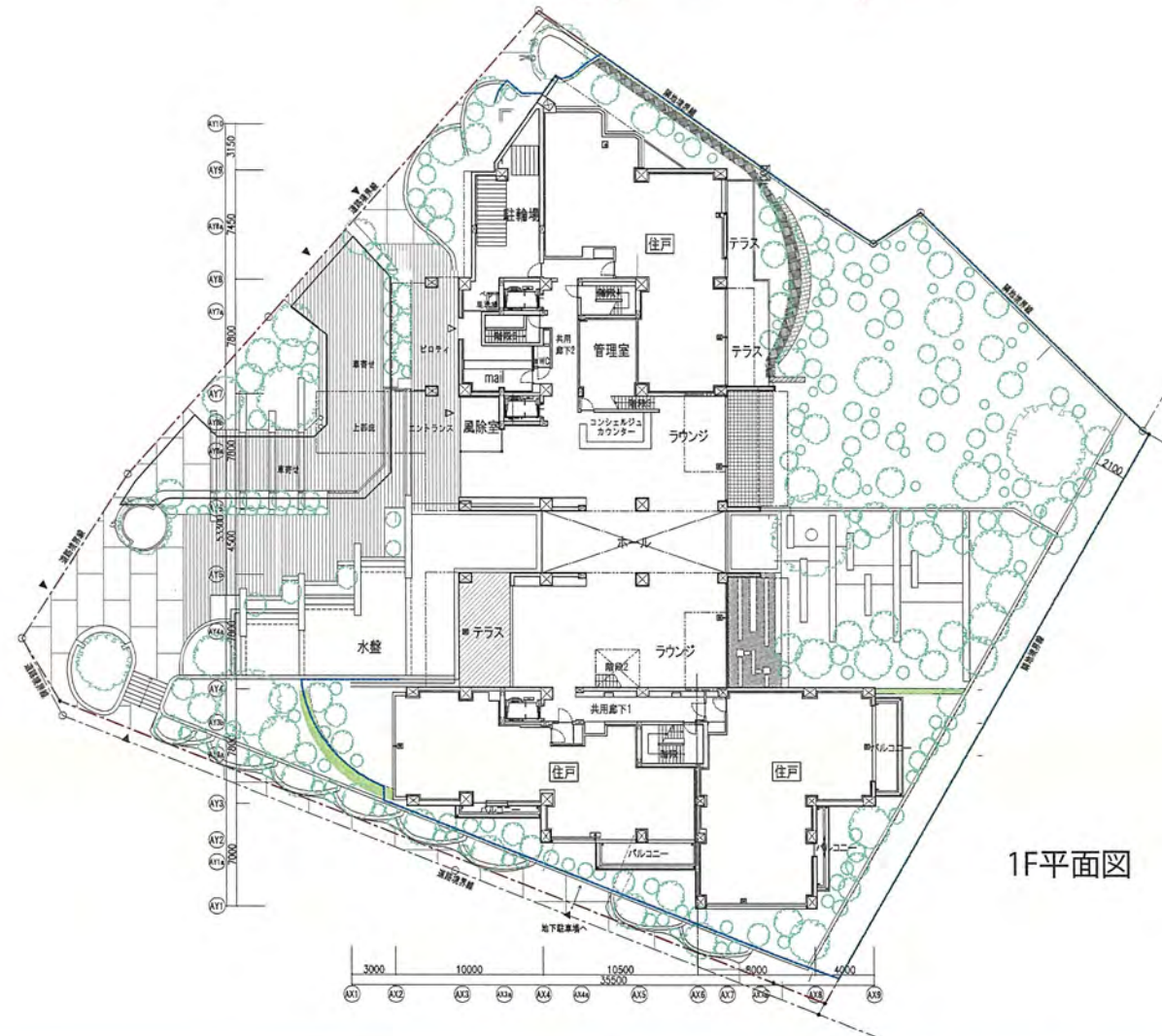
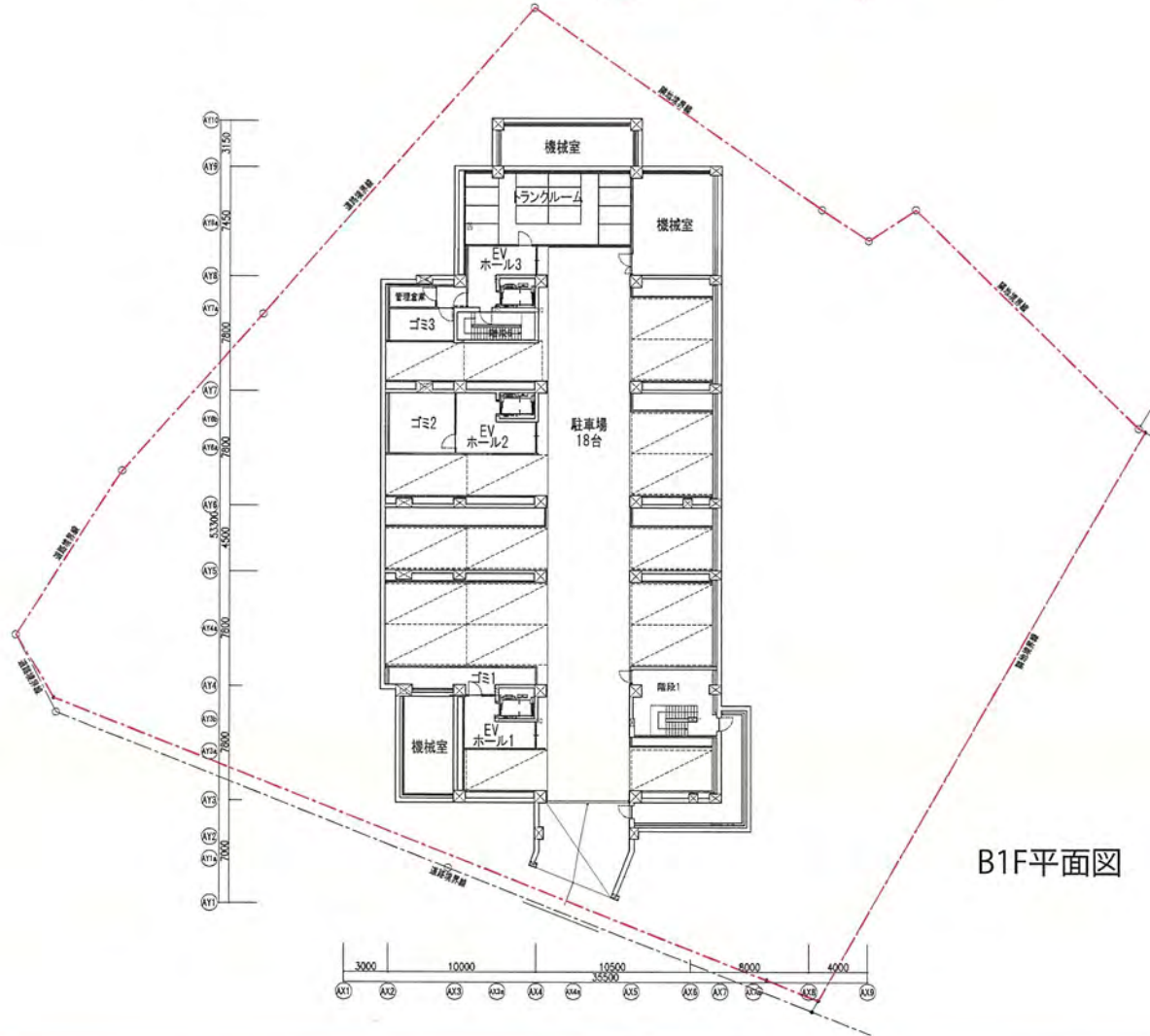
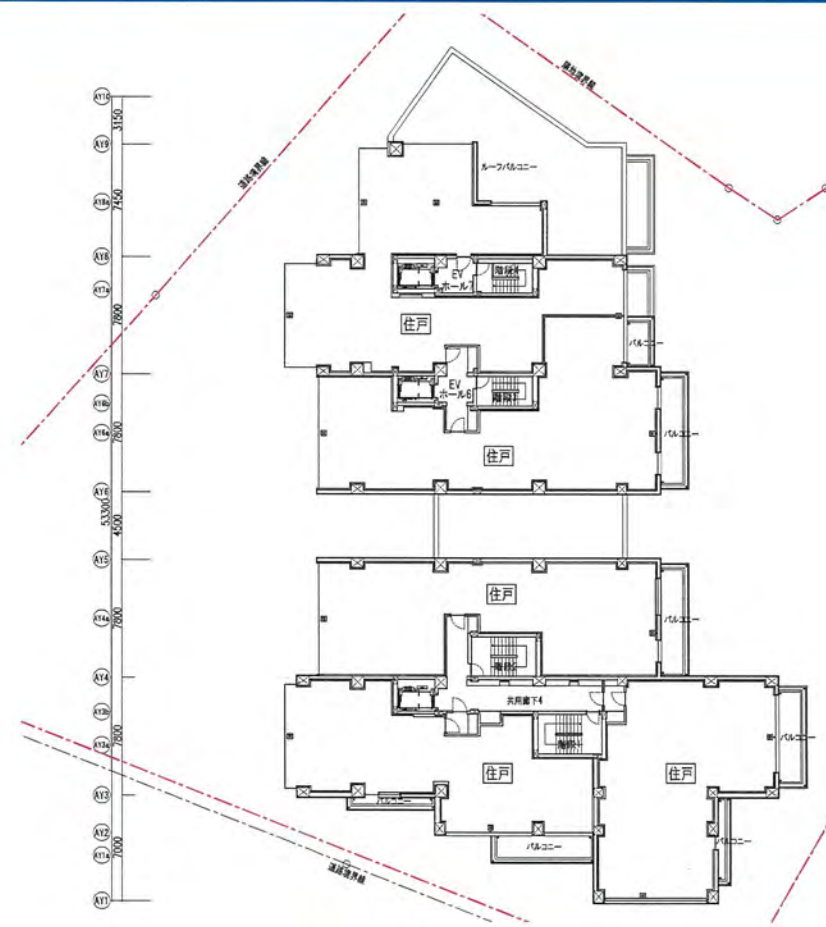
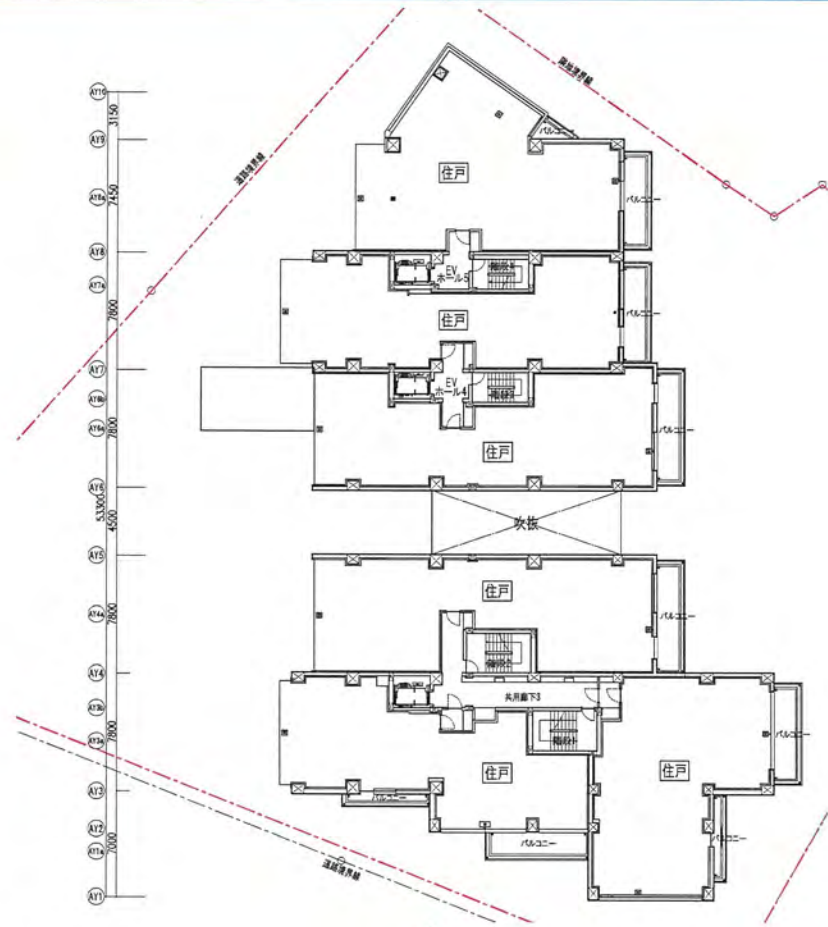
- |   |  |
|---|--|
| ① | 石器質無釉タイル貼 240*40<br>(織部製陶 クレイマスター-接着貼 砂目地) : 2.5Y7.5/1.5 |
| ② | 左官調塗装 (FMXアツ/フコウ) : 2.5Y6/2                              |
| ④ | ガラス手摺 (ハイドレール (固定) /サンレール)                               |
| ⑤ | アルミ笠木 (アキプレート/ABC商会)                                     |
| ⑩ | RC本実木目化粧打ち放し   |
| ⑪ | 鉄平石  |

A敷地立面図  
S=1/300



キープラン





A敷地平面図  
S=1/500



■建物を雁行させることにより、建物を分節し長大な存在感を抑えます。

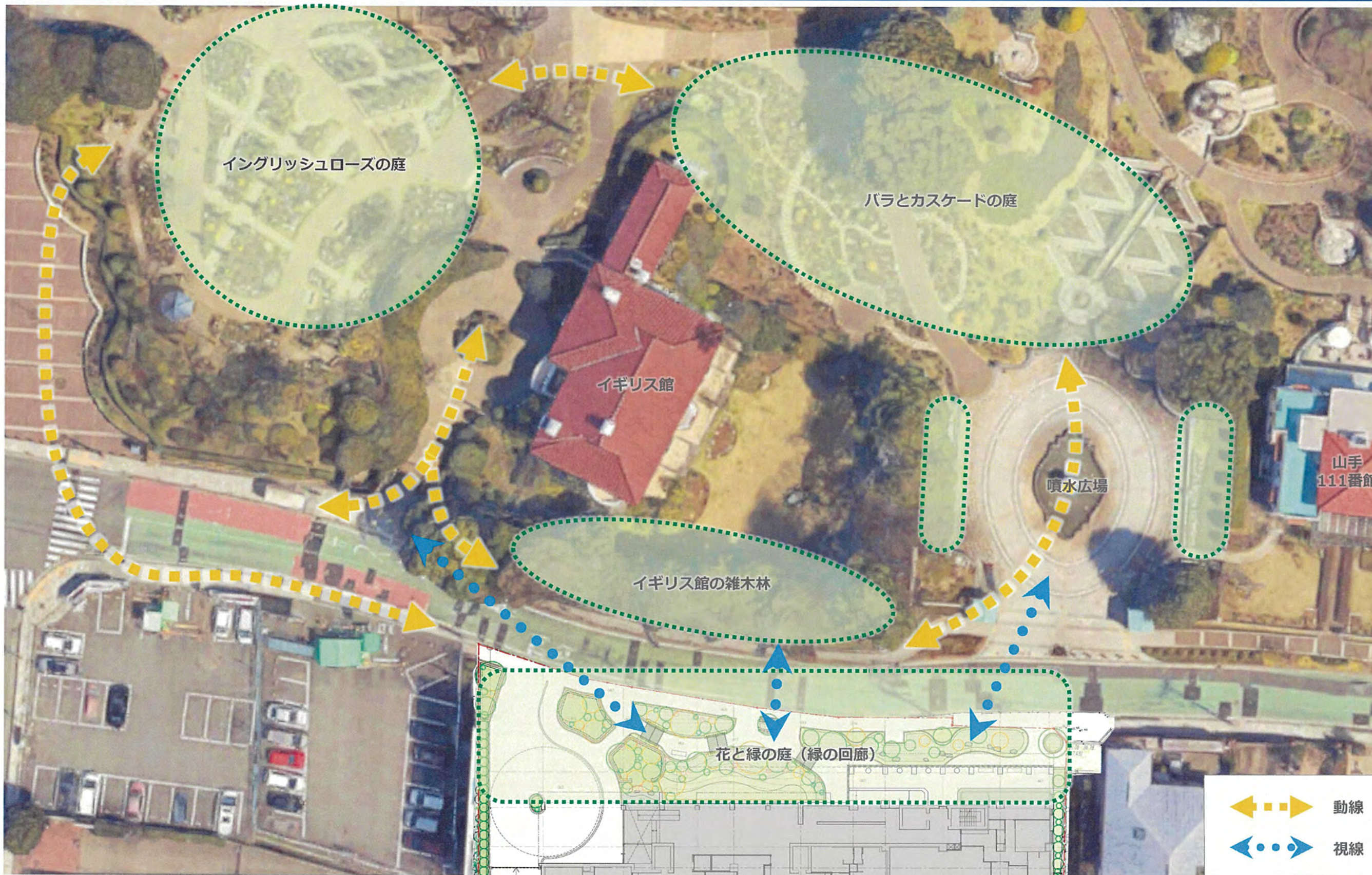
→効果：山手エリアの文化となっている、邸宅のスケール感を守ります。外構や建物デザインのゾーン分けも合理的に可能です。

■B 敷地では、向かい合う「港の見える丘公園」内に立つ洋館の意匠性を尊重します。デザインコードを抽出し、現代のセンスに解釈して建物外観に取り入れます。

■緑に包まれる低層部と、眺望に優れ特別感のある最上階で素材を切り替え、スケール感を平面・立面の双方で親しみやすくします。ファサード側には建築緑化を実施し、平面だけでなく立体的に植栽を展開します。







建物を道路境界線に対して可能な限り大きくセットバックして、花と緑の庭をつくります。  
 ⇒効果：港の見える丘公園の明るく華やかな雰囲気を取り込んだ庭をつくることで、イギリス館の周りに広がる庭の1つとして、花と緑のネットワークをつなぎます。  
 これまで公園に隣接する空間でしかなかった場所をセミパブリックな空間として整備・開放し、四季を通して、豊かな花と緑を感じ触れ合うことができる庭を創出します。

← → 動線  
 ← → 視線



- B 敷地では、向かい合う「港の見える丘公園」内に立つ洋館の意匠性を尊重します。デザインコードを抽出し、現代のセンスに解釈して建物外観に取り入れます。
- 港の見える丘公園噴水広場の向かいに、パブリックに開かれた回廊部分を創出します。敷地内庭の四季の草花や、遠景の噴水広場を望む散策路及び視点場を提供します。



隣接する山手洋館の特徴を抽出



アクセントと  
なっている頂部

111 番館

建築緑化 半屋外のアルコーブ



イギリス館

濃色の窓枠 白系の明るい  
外壁色

イギリス館前の木立



噴水広場





港の見える丘公園噴水広場の向かいに、パブリックに開かれた回廊部分を創出します。敷地内庭の四季の草花や、遠景の噴水広場を望む散策路及び視点場を提供します。



噴水広場側より



イギリス館の正面ゾーン：草花+高木で、敷地内を中心に散策者を楽しませます。

噴水広場の正面ゾーン：草花を手前に、奥には広がりのある公園内景色として切り取ります。

回廊からの  
視野イメージ



**B** 公園の噴水広場に正対する部分には、山手地区でよくみられるようなアイアンのベンチを設置し、公園の拡張の様に景観に寄与します。



**C** 回廊の中央付近にはニッチ状の休憩スペースを設けます。通過するだけでなく、植栽を楽しみながら休憩することが可能です。



**A** 前面道路側の歩道とは別に、計画地内の庭を楽しみながら回廊を通る歩行者動線を創出します。



**D** イギリス館前の高い塀が目立ちすぎないように、近景→中景→遠景 と視線のレイヤーを考慮します。



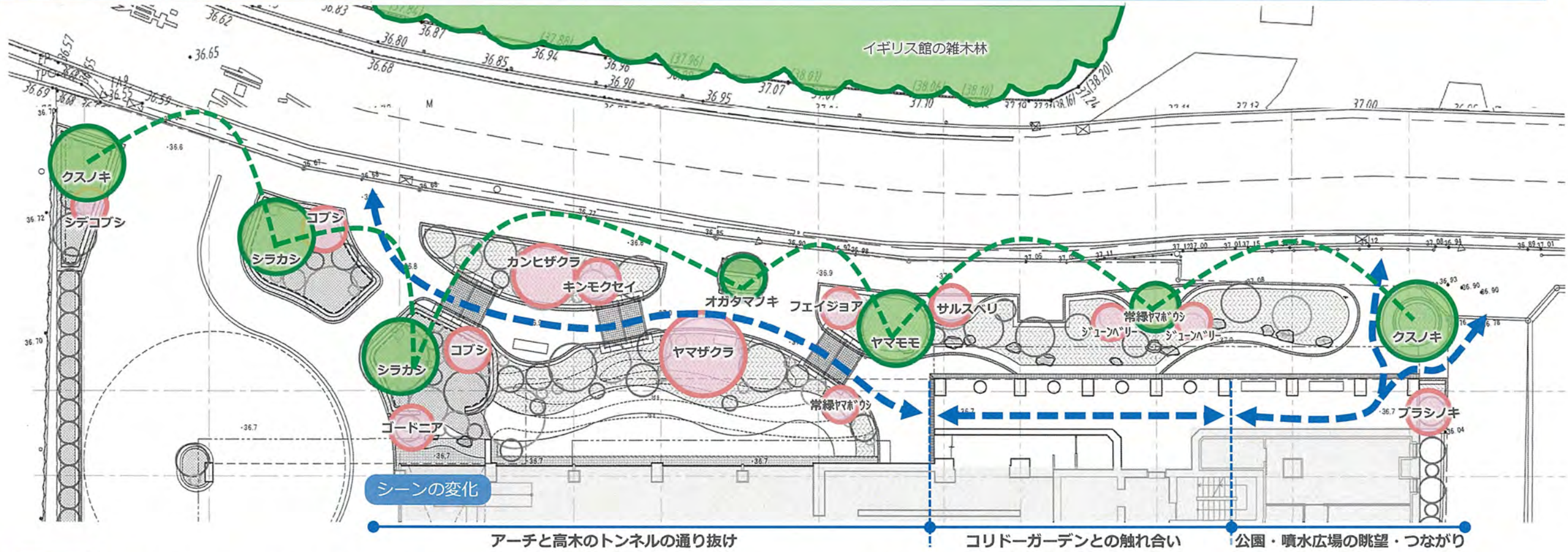
回廊からの眺望  
image

四季それぞれの植物を楽しめる回廊を、噴水広場に隣接して計画地内の建物ピロティ部分に整備します。歩くことも、たたずんだり休むこともでき、生活動線に潤いをもたらします。噴水広場を望む視点場も整備し、敷地内外の景観に寄与します。

植栽計画として、遠景が魅力的なポイントでは多年草の花や低木を中心とし、道路対面に塀があり奥行きが望めないポイントでは、計画地内にて低木に加え中高木でも修景いたします。

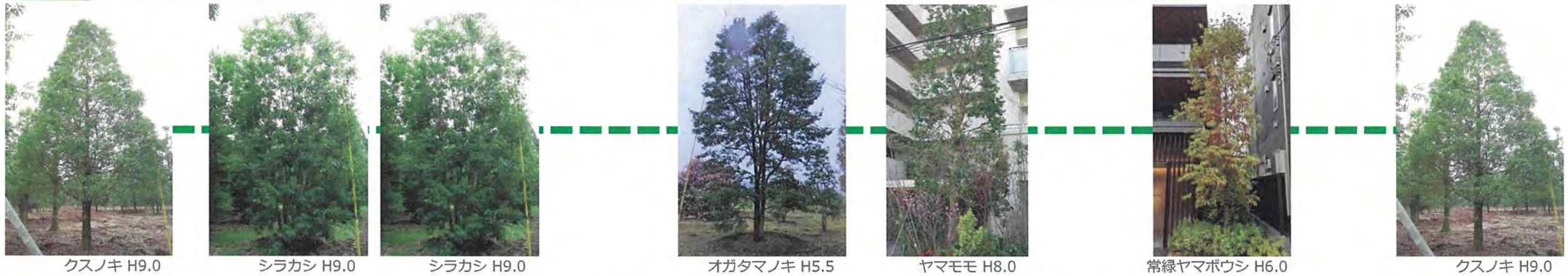






沿道の緑

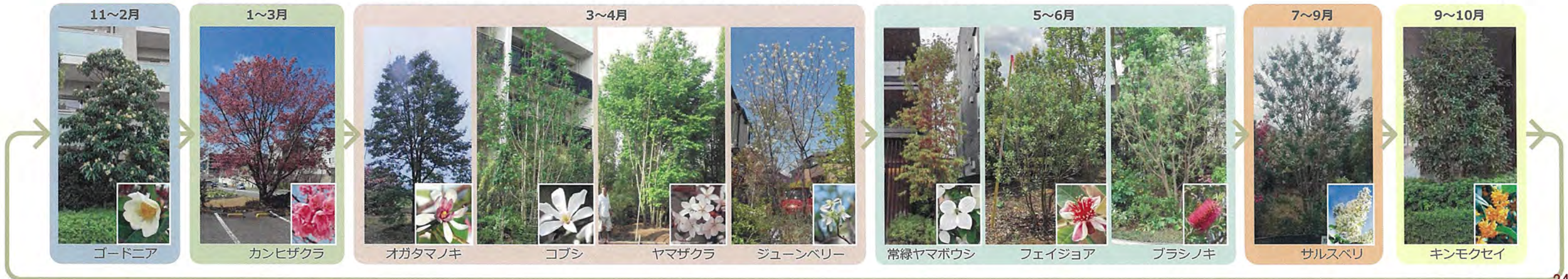
常緑高木を一定の間隔で配植することで沿道に対して緑のリズムをつくり、公園側の緑豊かなイギリス館の雑木林とともに、快適な沿道空間を創出します。



花木のリレー

花の咲く樹木を敷地全体に植えて、低木・草本とともに花と緑の庭をつくります。各季節を彩る花木による花のリレーを展開します。

※主要高木





港の見える丘公園の緑とのネットワークを結ぶことを目的として、「イングリッシュローズ」「四季の彩り」をキーワードにバラや季節を彩る草花を植栽します。またマンションの庭として、1年を通じた緑の景とメンテナンスの視点から、常緑性の低木・地被との混植やメンテナンスを考慮した植栽とします。



冬 12~2月開花



春 3~5月開花



アーチ



夏 6~8月開花



修景バラ

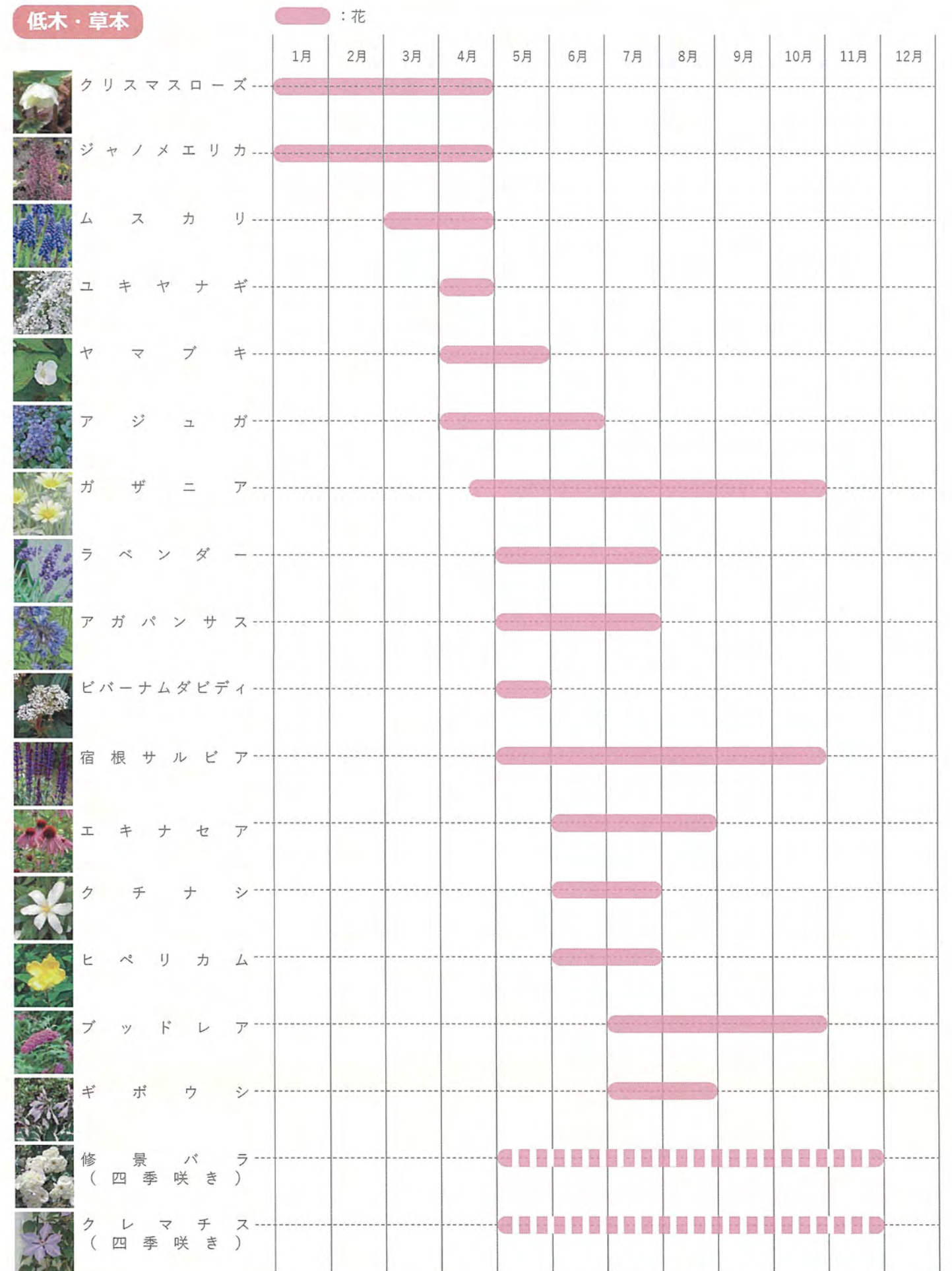
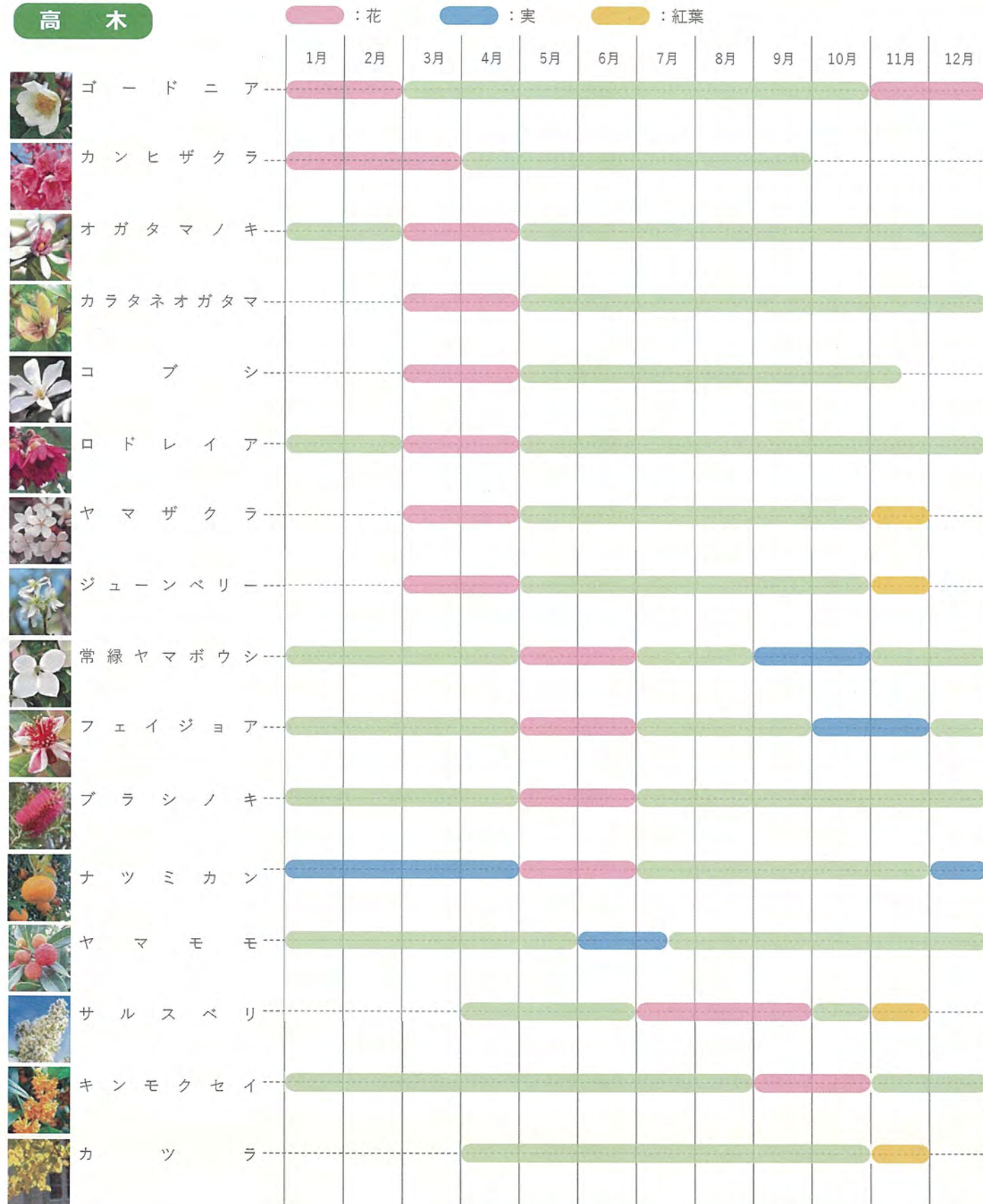


アクセントグリーン





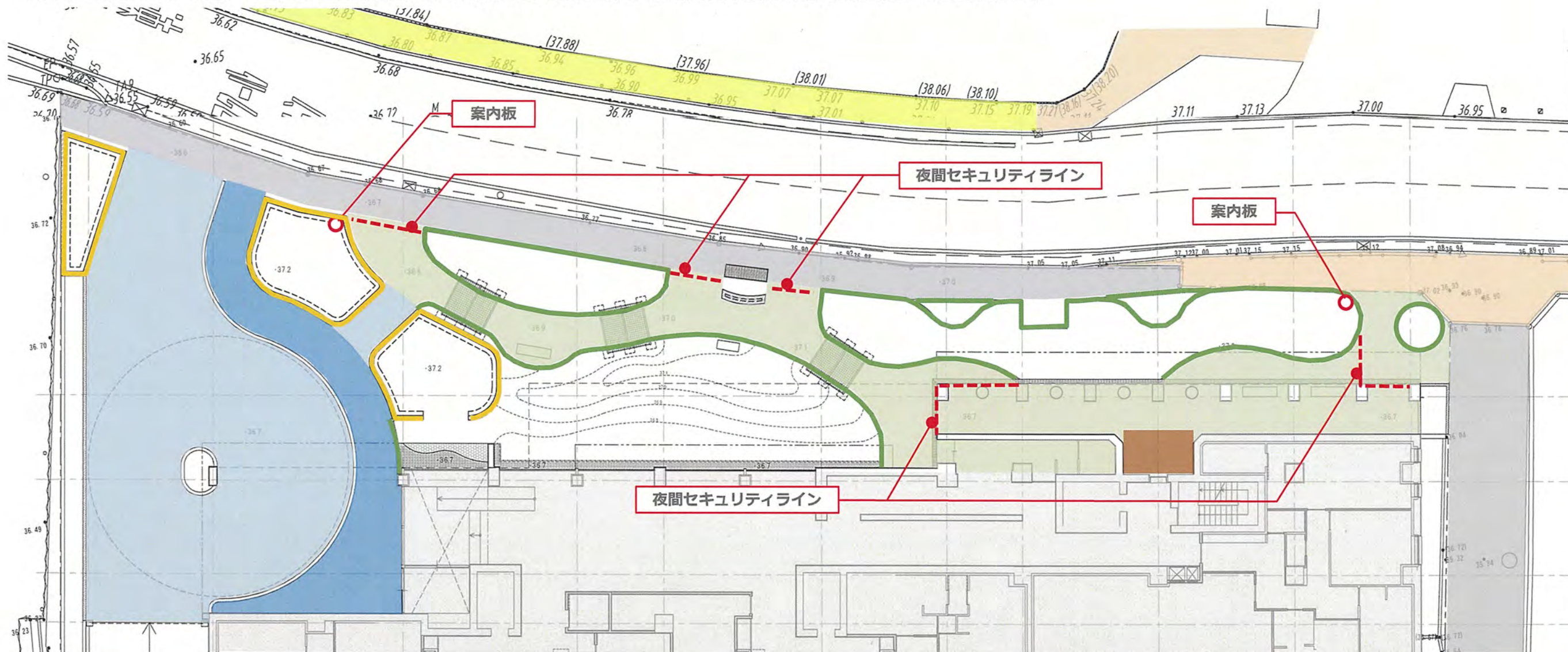
花暦 1年を通して、花や実、紅葉で庭を彩る植栽を行います。





舗装施設材料

庭を開放して敷地内通路を散策してもらう方針から、歩道と敷地内通路の境界性を和らげて、散策路に入りやすい計画とします。  
現在歩道で使われている白/グレー系のタイル舗装と同色調の材料を用いることで、歩道と敷地内が連続した雰囲気となることを目指します。



小松石小端積み H500



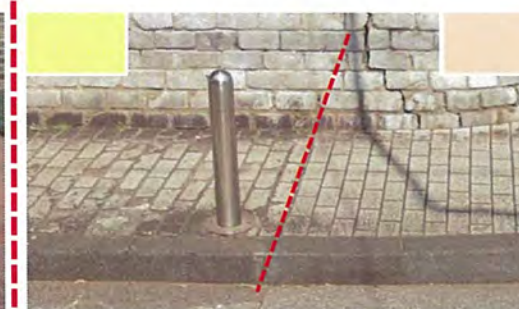
ピンコロ舗装 (車寄せ)



インターロッキング (白/グレー系) 舗装



テラコッタ調大判タイル



【既存】歩道石張り/タイル舗装(公園側)



御影縁石 H100



自然石乱張り (車寄せと同素材)



洗出し舗装 (白/グレー系)



【既存】歩道タイル舗装



【既存】アスファルト舗装

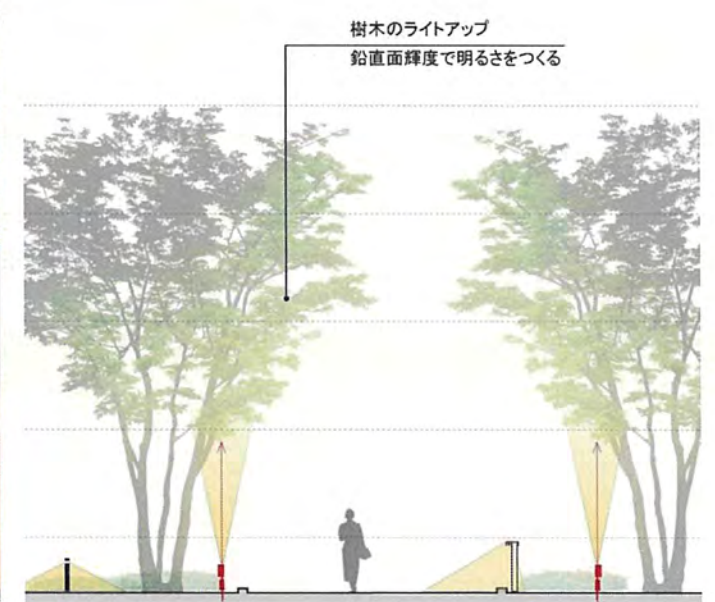
【新設】 【既存】



豊かな植栽を活かして、足元からのスポット照明を高木に当て、間接照明の様な柔らかい光で歩道に明るさをもたらします。まぶしさを抑え、やさしく景観に浮かび上がる安全な夜間照明を計画します。

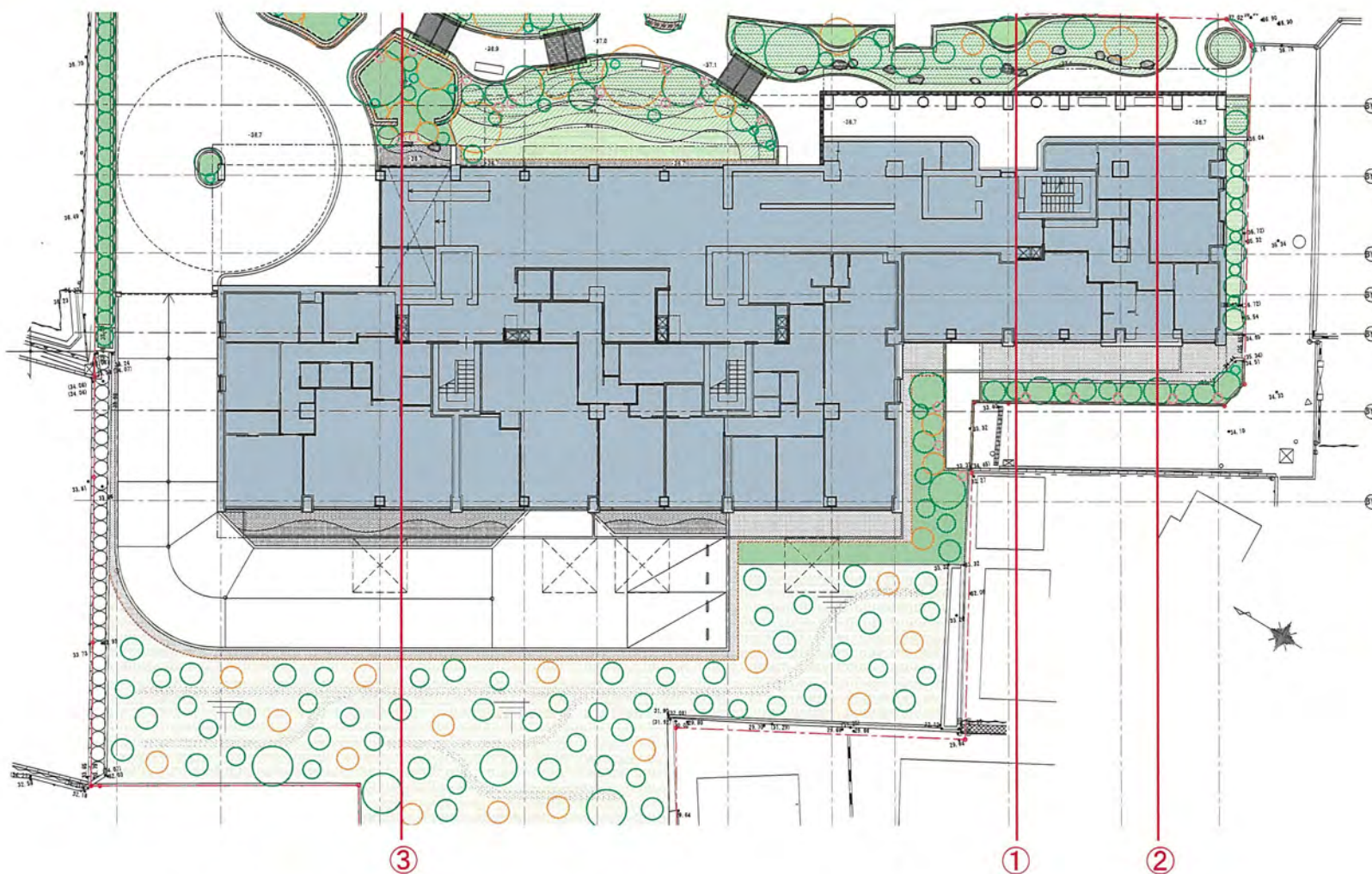


B敷地 外部照明検討図



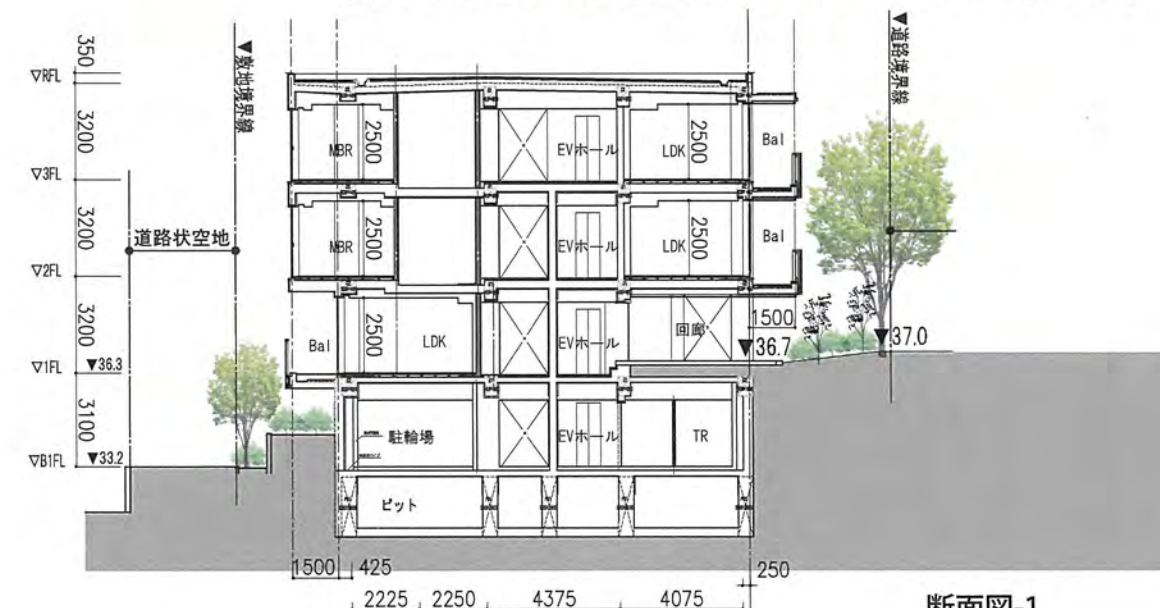
植栽を活かした照明手法 イメージ



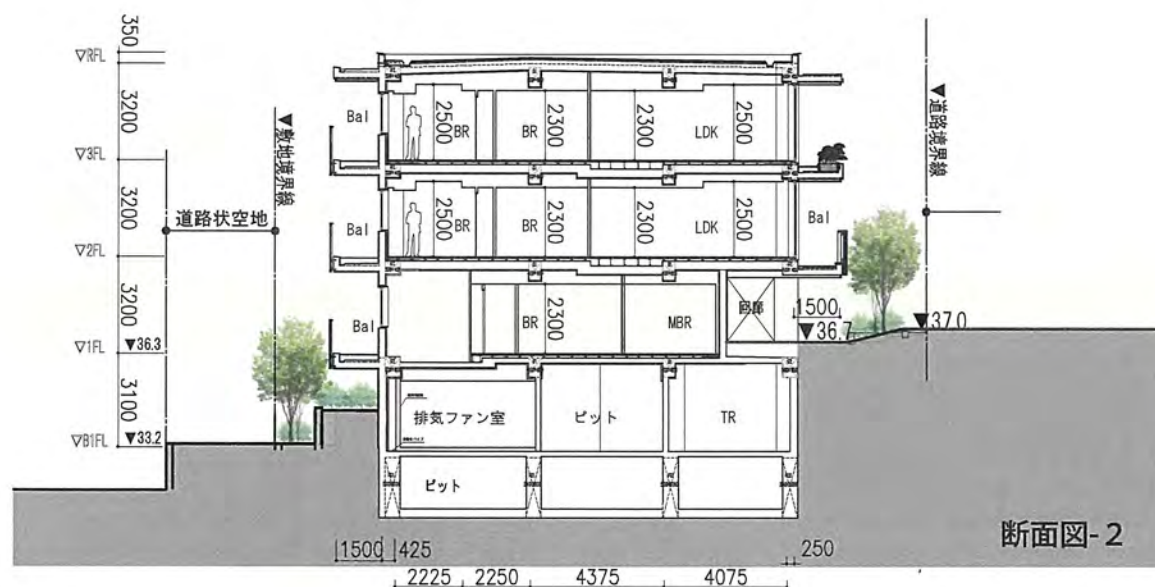


西側（陣屋坂）の道路から、C 敷地ゲート越しに B 敷地建物を望む

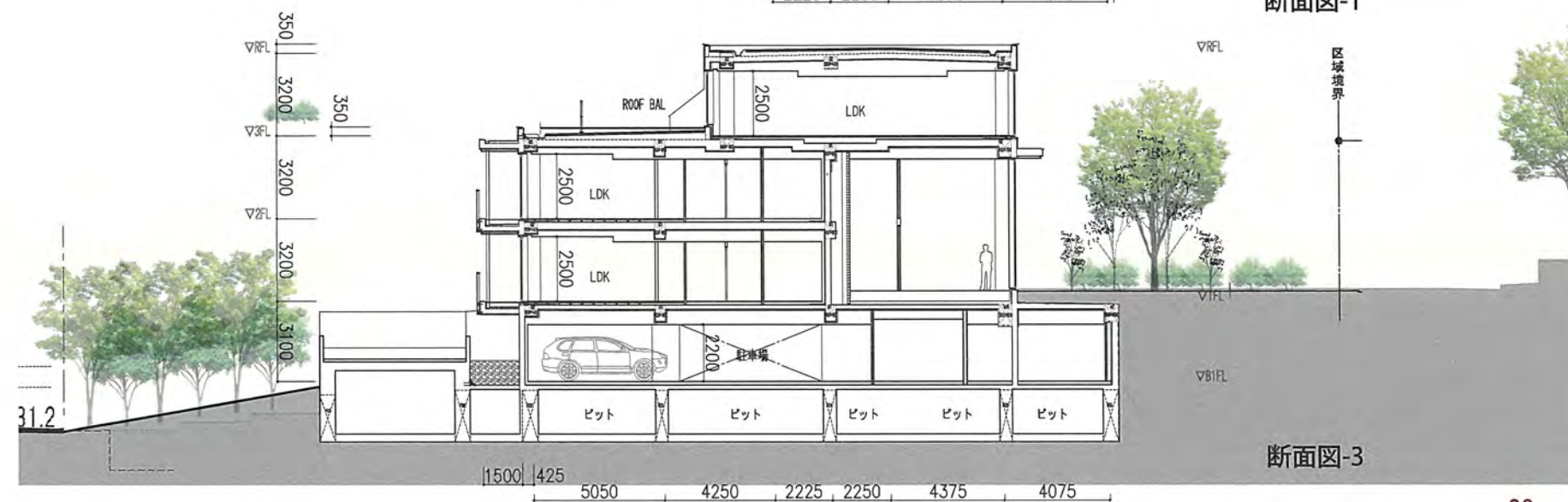
西側（陣屋坂側）に地下駐車場を設置し、景観上主要な道路に対する植栽帯など公共性を高めます。また、西側斜面には常緑樹を中心に植え、建物高さの印象を可能な限り抑えます。



断面図-1

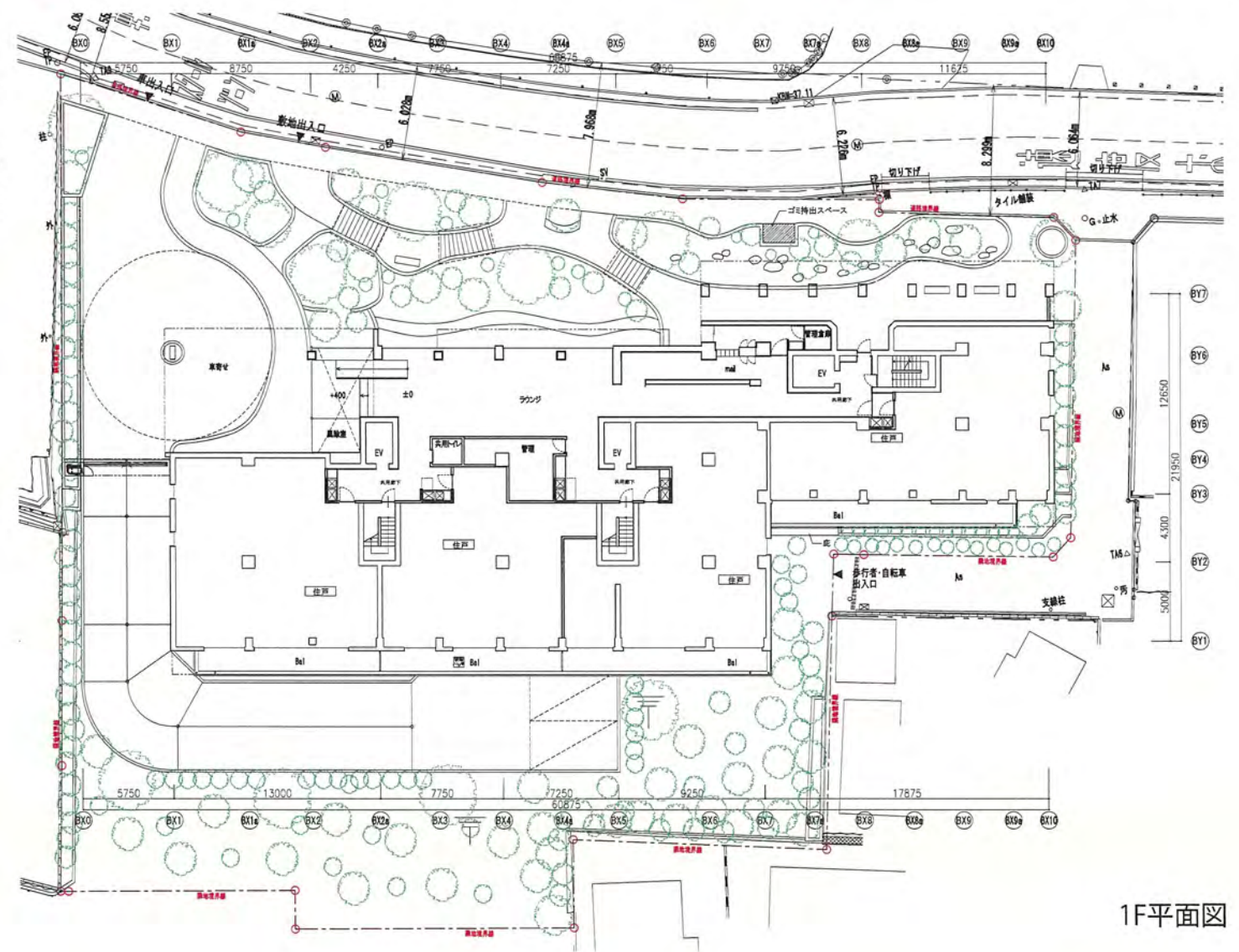
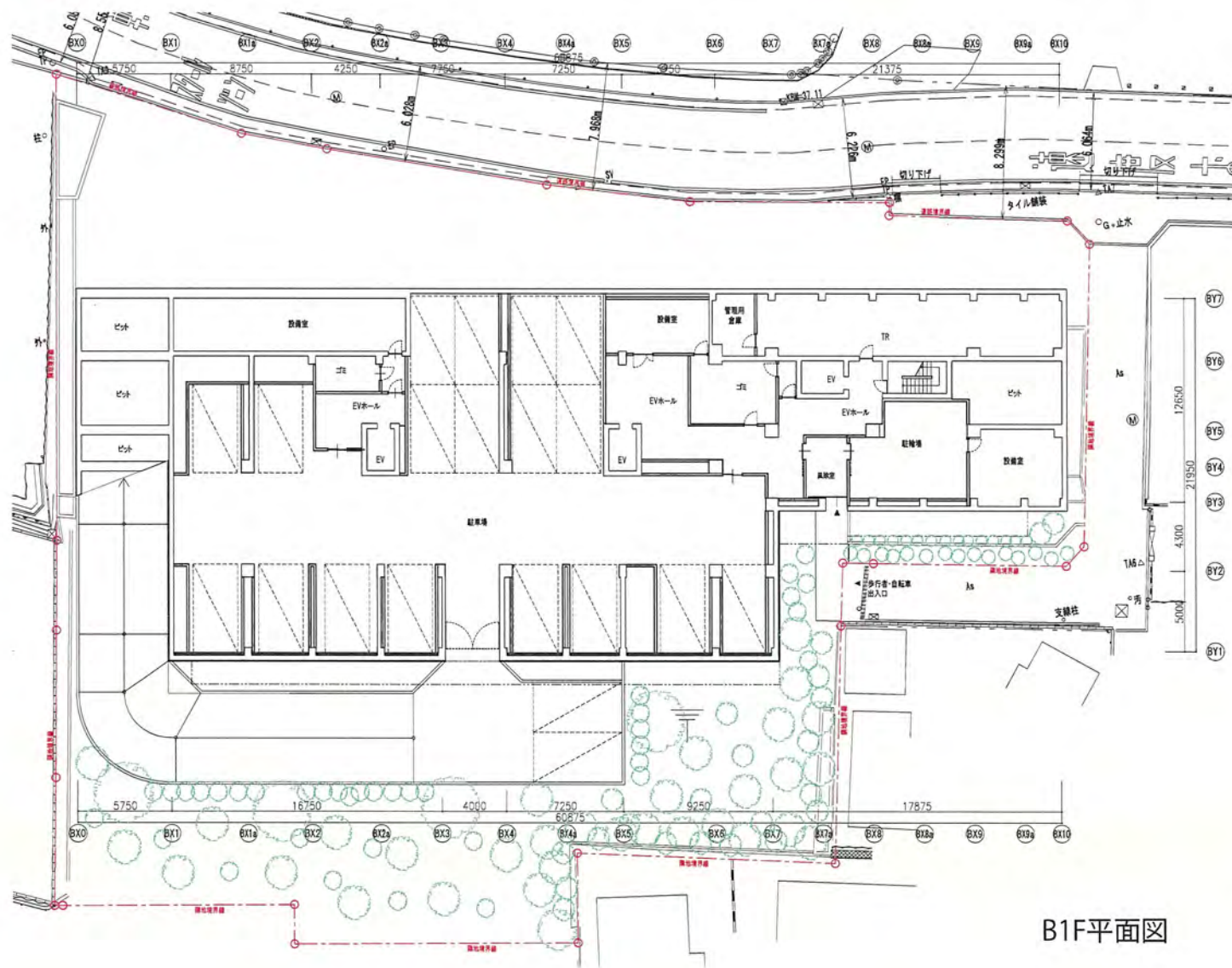
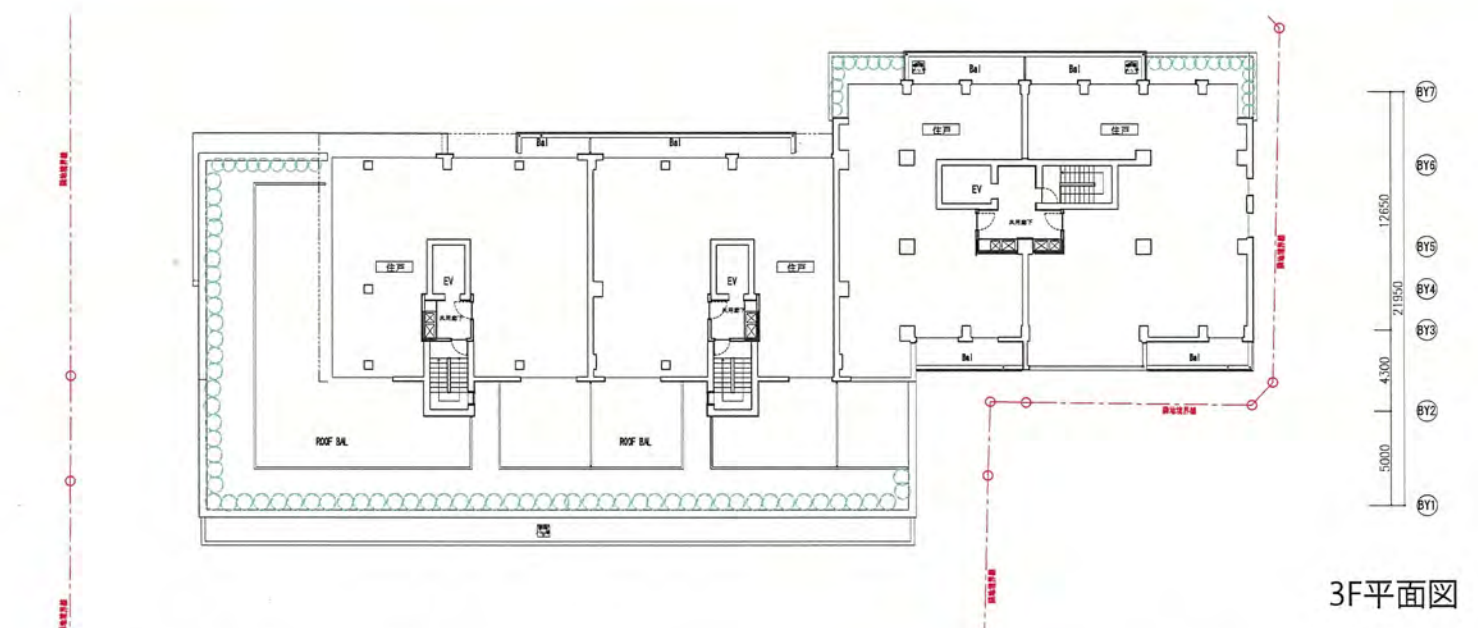
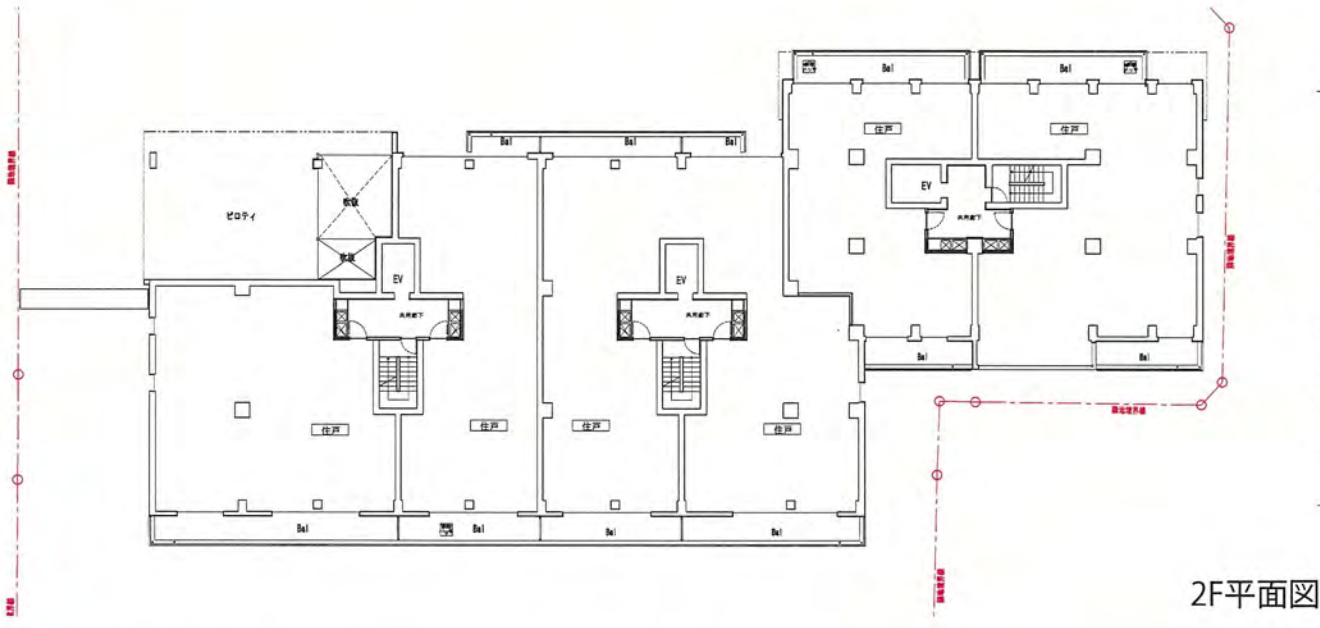


断面図-2



断面図-3

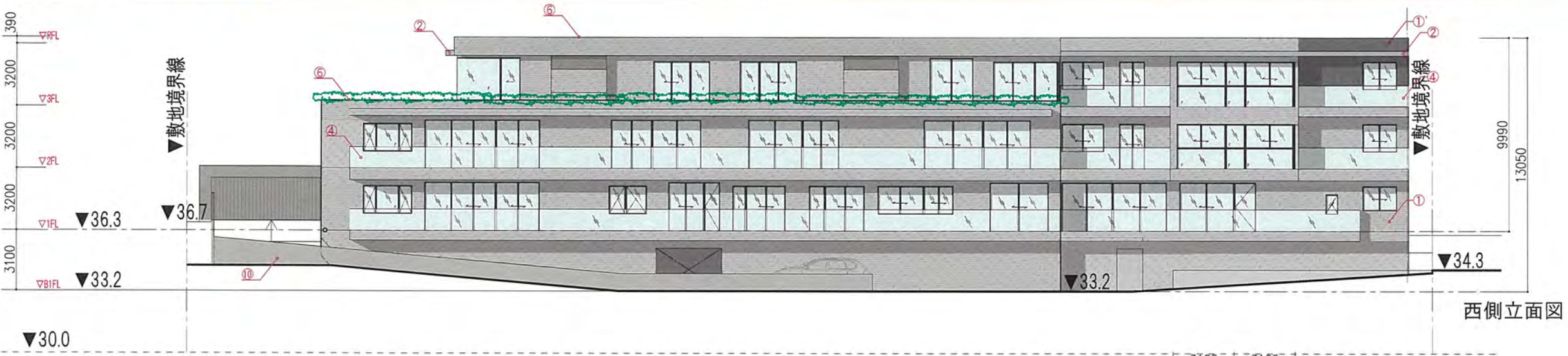




B敷地平面図  
S=1/400

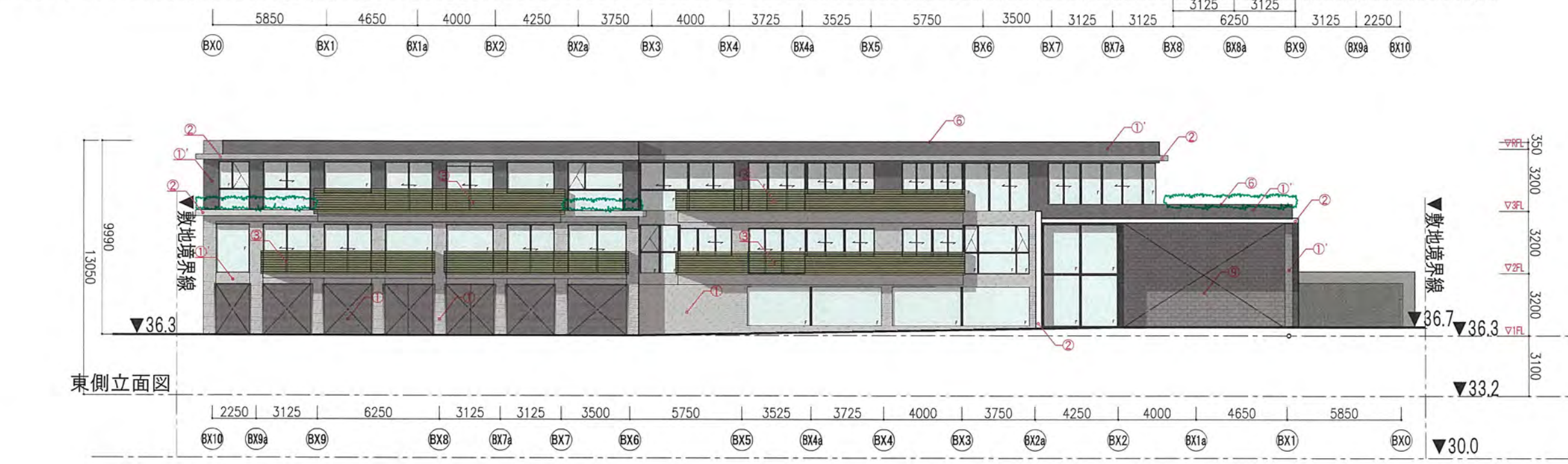


景観形成の計画

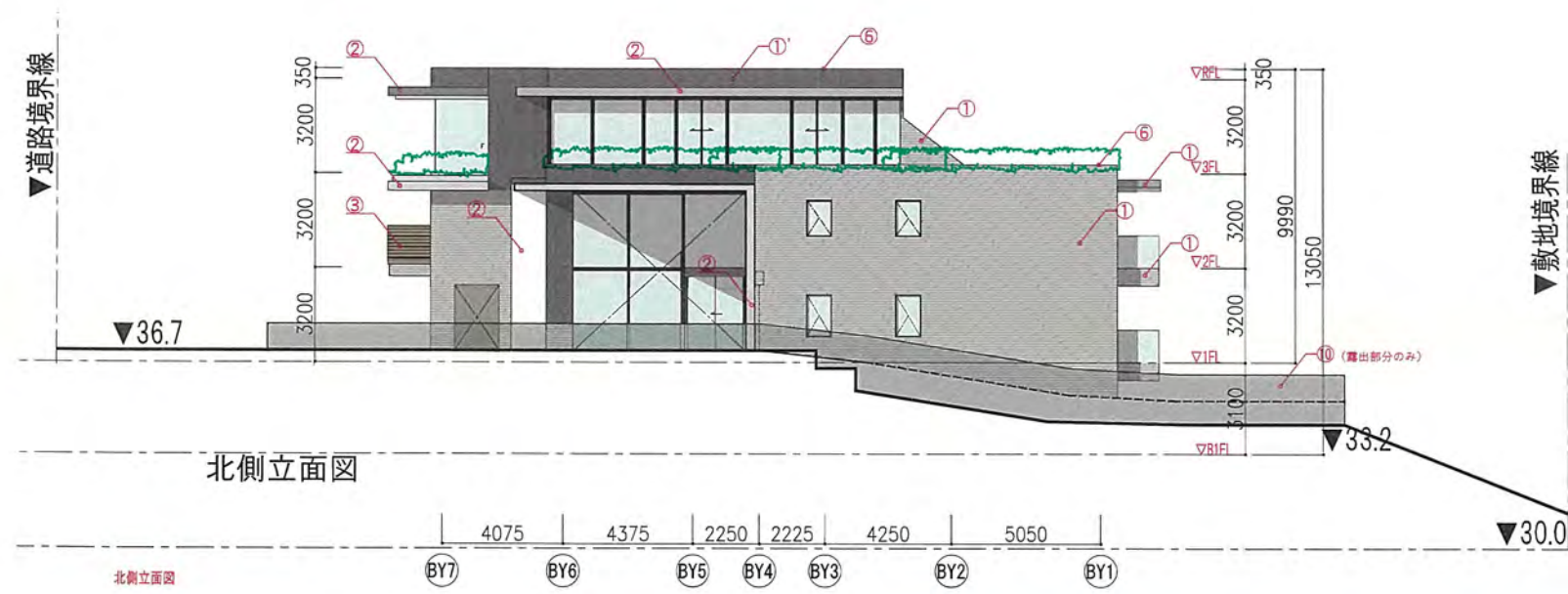


西側立面図

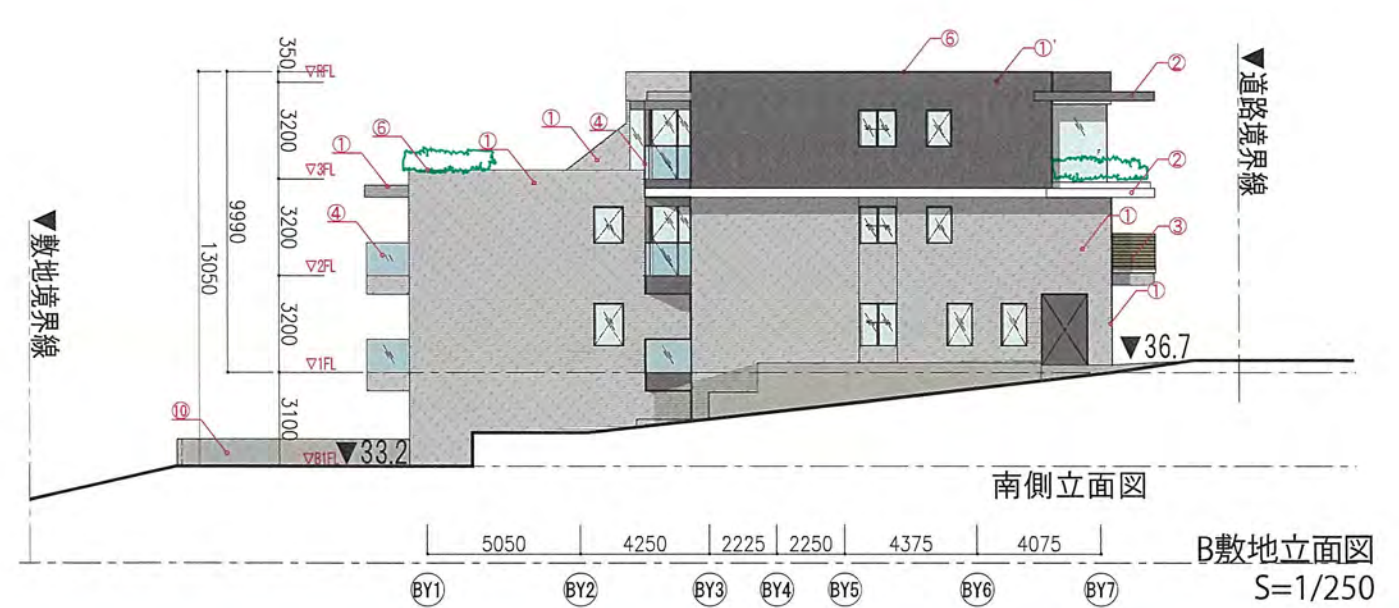
①	石器質無釉タイル貼-A 2.5Y 7.5/1.5
①'	石器質無釉タイル貼-B 5Y 4/1
②	左官調塗装 5Y 4/1
③	アルミ横棧ルーバー手摺 7.5YR 5/6
④	ガラス手摺
⑤	ガラス手摺
⑥	アルミ笠木
⑦	メッシュフェンスH1800
⑧	アイアンフェンスH1000
⑨	レンガブロック 透かし積み 5Y 4/1
⑩	RC本実木目化粧打ち放し



東側立面図



北側立面図



南側立面図

B敷地立面図  
S=1/250



①建物の引きと奥行きを重視し、旧居留地の邸宅のスケールの継承

計画建物は北側道路から引きを取った配置計画とすることで景観に配慮した計画とします。植栽越しに建物が垣間見えることで、山手らしい奥行のある空間をつくります。建物ボリュームは長大にならないよう分節することで周辺地域のスケールに合った建物とします。

②周辺環境と連続した緑のネットワーク

道路境界際には既存樹木も活用した緑豊かな景観をつくります。山手らしい樹種の他にも、実のなる樹や季節ごとに表情が変わる樹木を織り交ぜながら、周辺環境と一体感がある緑のネットワークを形成します。

③土地の記憶に寄与する、周辺に調和したテクスチャ

以前この地に建っていた建物と、高低差処理の擁壁の雰囲気を受け継ぎ、暖色のアースカラーで植栽と調和した建物外装とします。背後にも近代文学館の森を抱える事から、樹々になじむ一角を創出します。





# 景観形成の計画

既存のソメイヨシノ 3本が生育するよう十分なクリアランスを確保し、前面道路から大きな引きを取った建物配置とします。  
 低木・中木・高木の組み合わせにより、建物前面の駐車場を隠し、存在感を可能な限り無くします。  
 奥まった車室部分上部へはエントランスからのキャノピーを伸ばし、一体感を高めます。





# 景観形成の手法

前面道路から十分に引きを取ります。  
 既存ソメイヨシノを避けるように建物を雁行させ、邸宅のスケール感を守ります。  
 近接するG敷地では新植のサクラ（アマノガワ）を計画しており、植栽の連続感を守ります。

神奈川近代文学館の森

赤点線：以前の建物輪郭

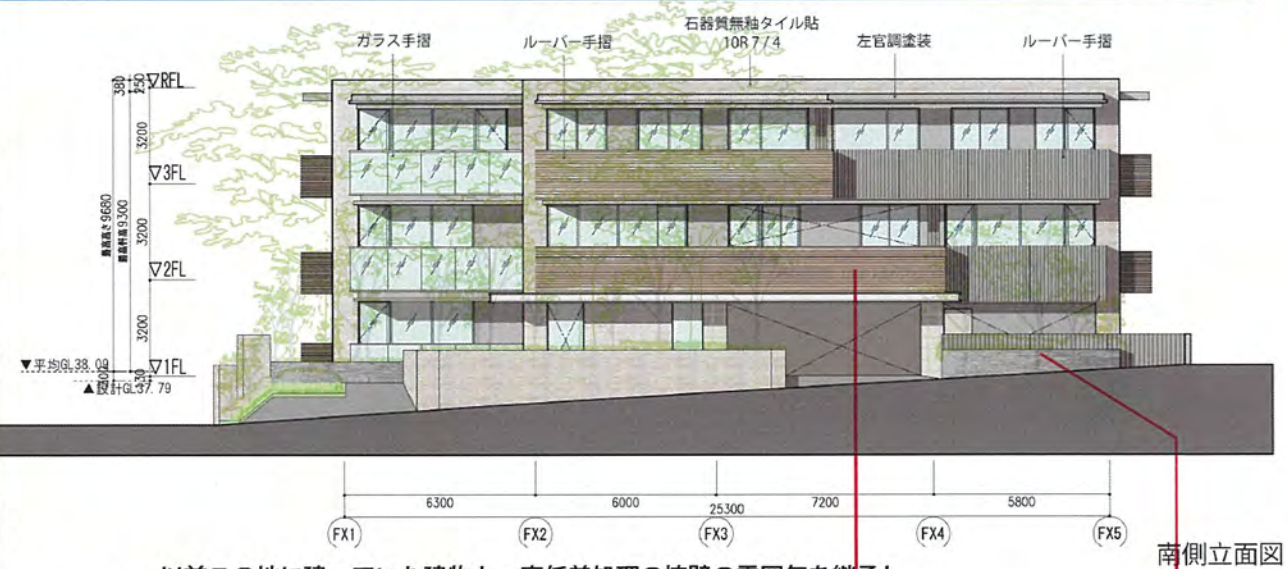
F敷地

サクラアマノガワ

サクラアマノガワ

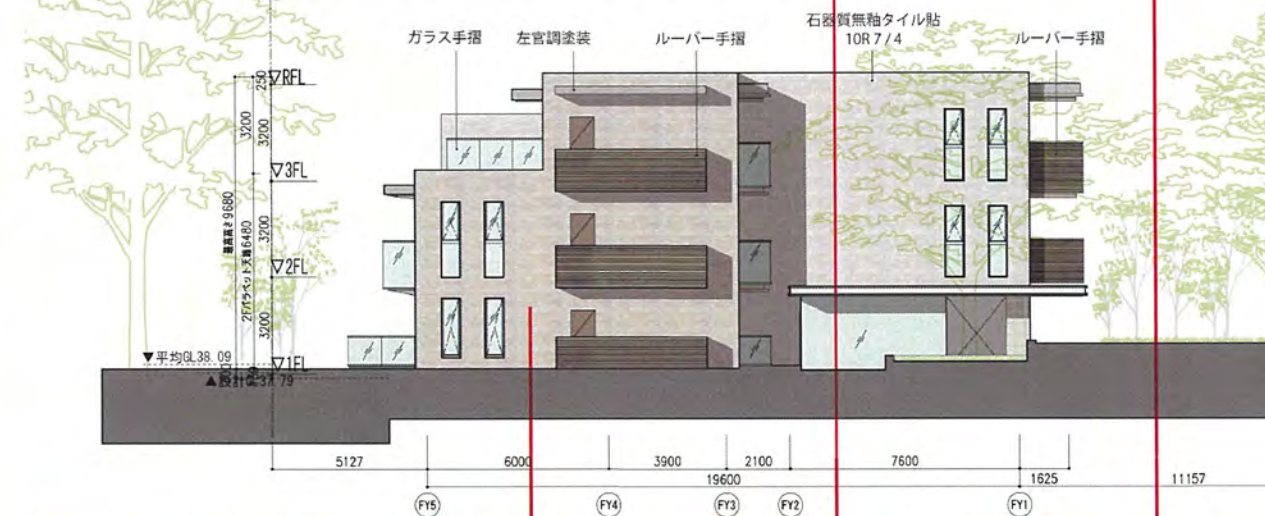
既存ソメイヨシノ  
 F～G敷地で連続する  
 鉄平石小端積みで曲線を描く  
 植栽帯

平面図兼配置図 S=1/400



南側立面図

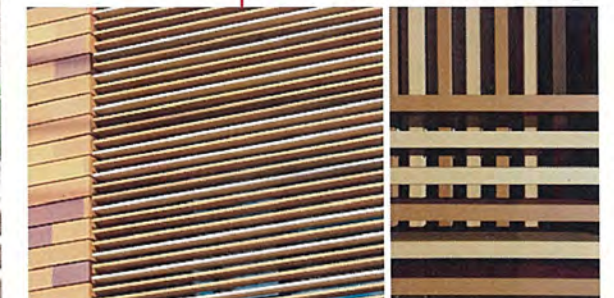
以前この地に建っていた建物と、高低差処理の擁壁の雰囲気を受け継ぎ、暖色のアーチカラーで植栽と調和した建物外装とします。背後にも近代文学館の森を抱えることから、樹々になじむ一角を創出します。外構要素については隣接するG敷地と一部共通性を持たせます。



外装レンガタイル image

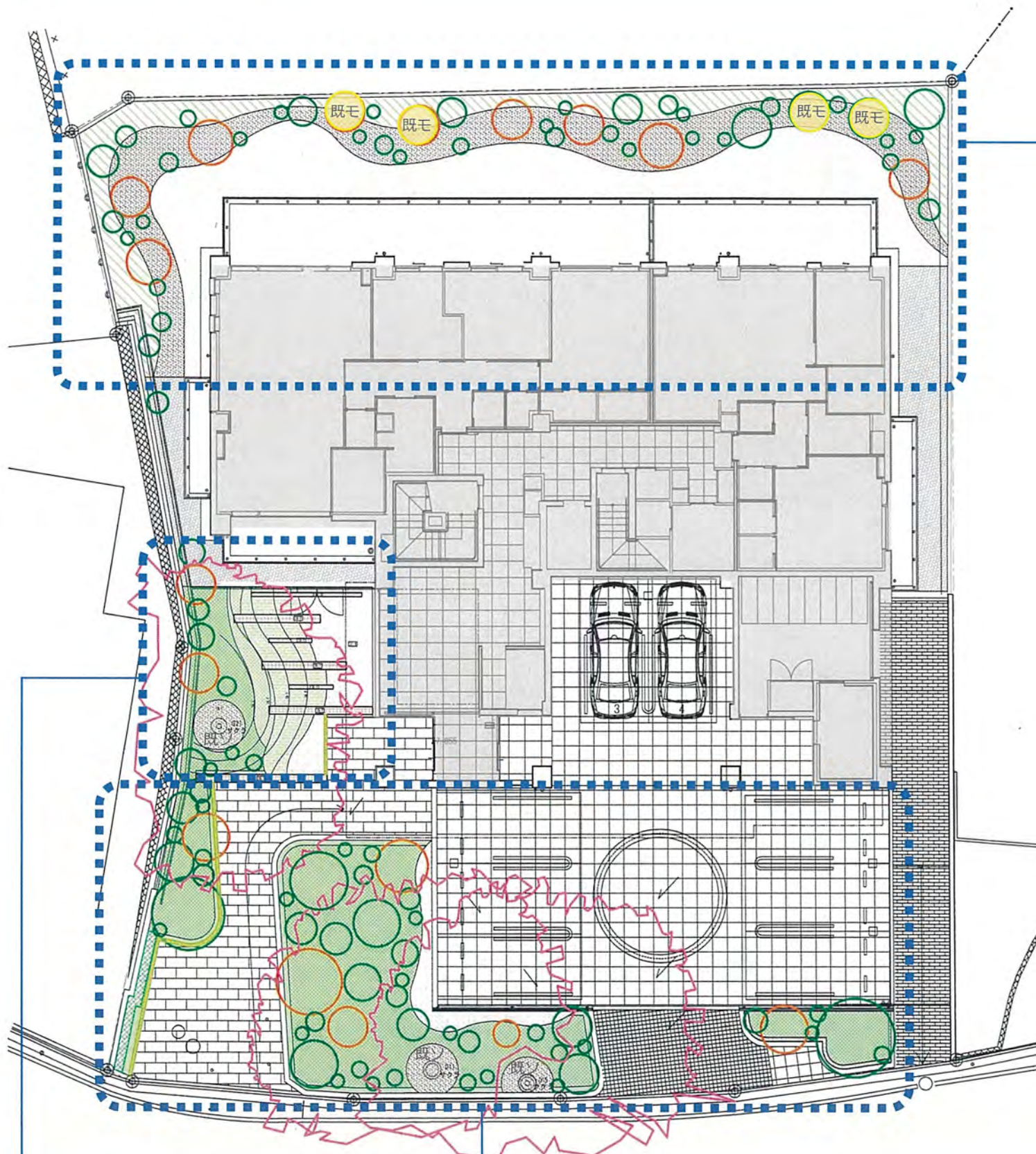


鉄平石小端積み image



ルーバー手摺 image





【周辺緑地と建物を繋ぐみどり】  
モミジ等の落葉の雑木を中心とした、四季の移ろいを感じられる植栽により、文学館のスケールの大きな緑と建物とを繋ぐ植栽とします。

◆既存樹木



ソメイヨシノ

モミジ

◆主な植栽計画樹種



クスノキ

ヤマモモ

タブノキ

ソヨゴ

クロガネモチ



コブシ

サルスベリ

イロハモミジ

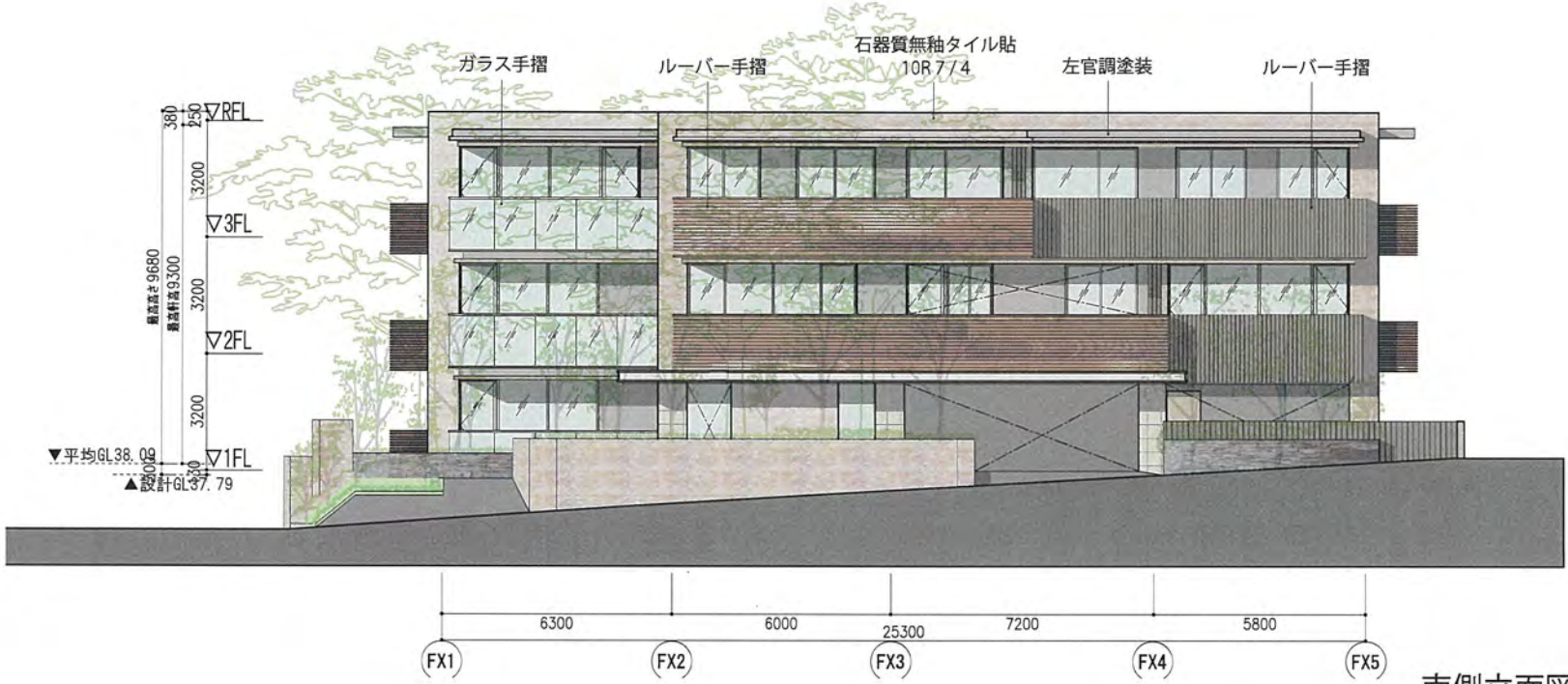
コハウチワカエデ

【安らぎの中庭】  
既存のソメイヨシノの木漏れ日が雑木・地被・景石の庭に差し込み、安らぎを感じられる中庭空間をつくります。

【周辺緑地と一体とした緑の拡がり】  
既存のソメイヨシノを中心に、まとまりのある植栽とすることで、文学館の緑の拡がりをつくります。またそのまとまりは、建築の存在感を和らげます。



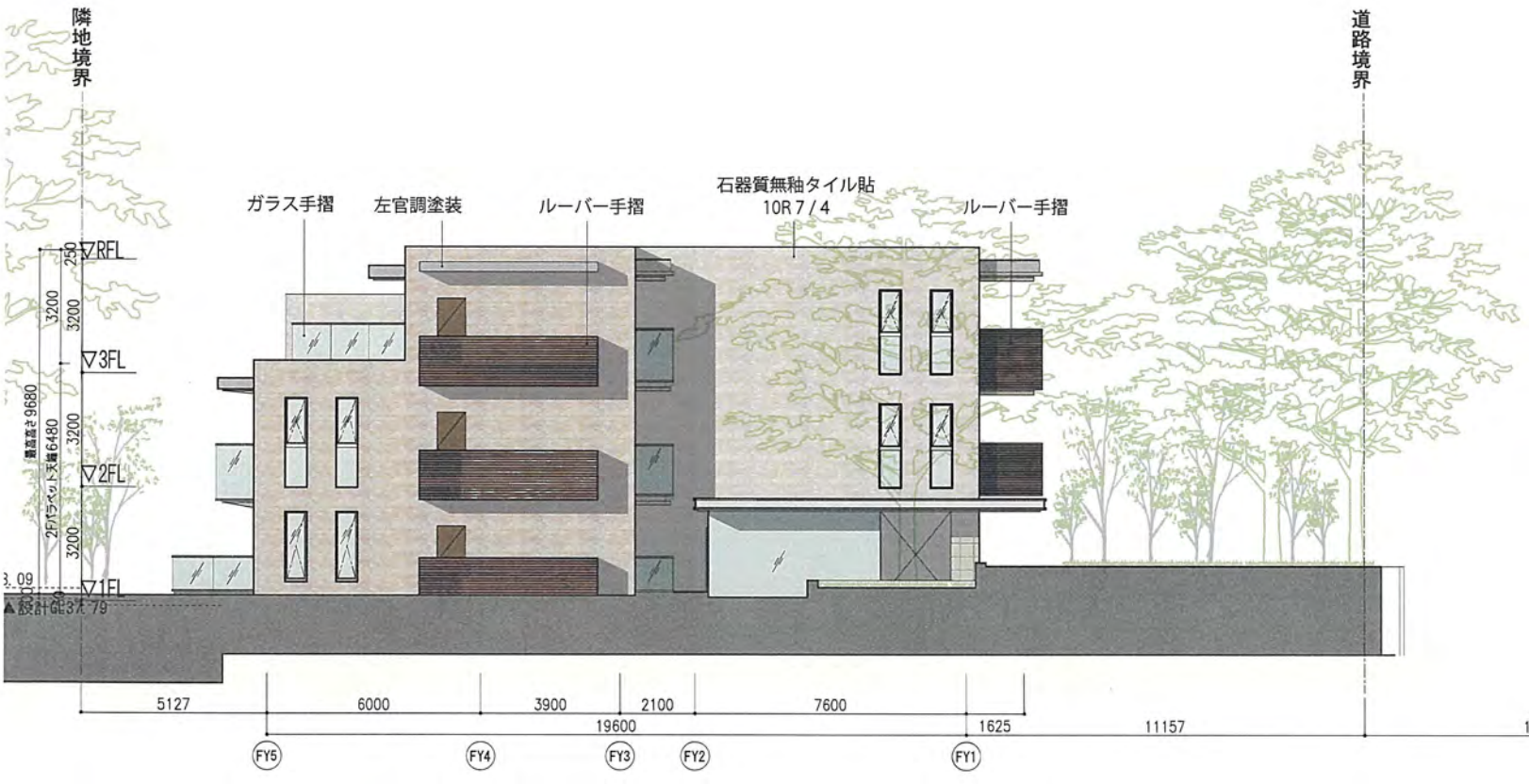
景観形成の計画



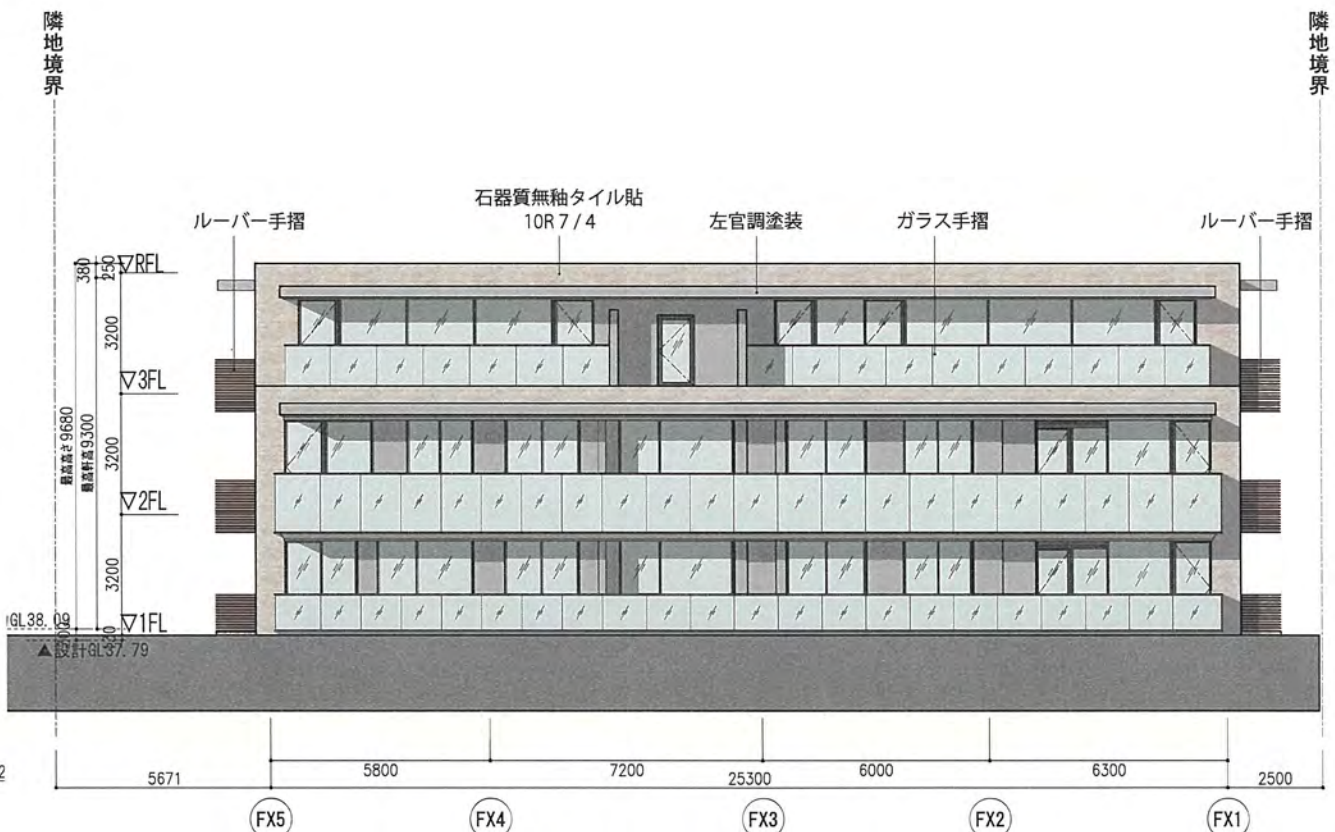
南側立面図



東側立面図

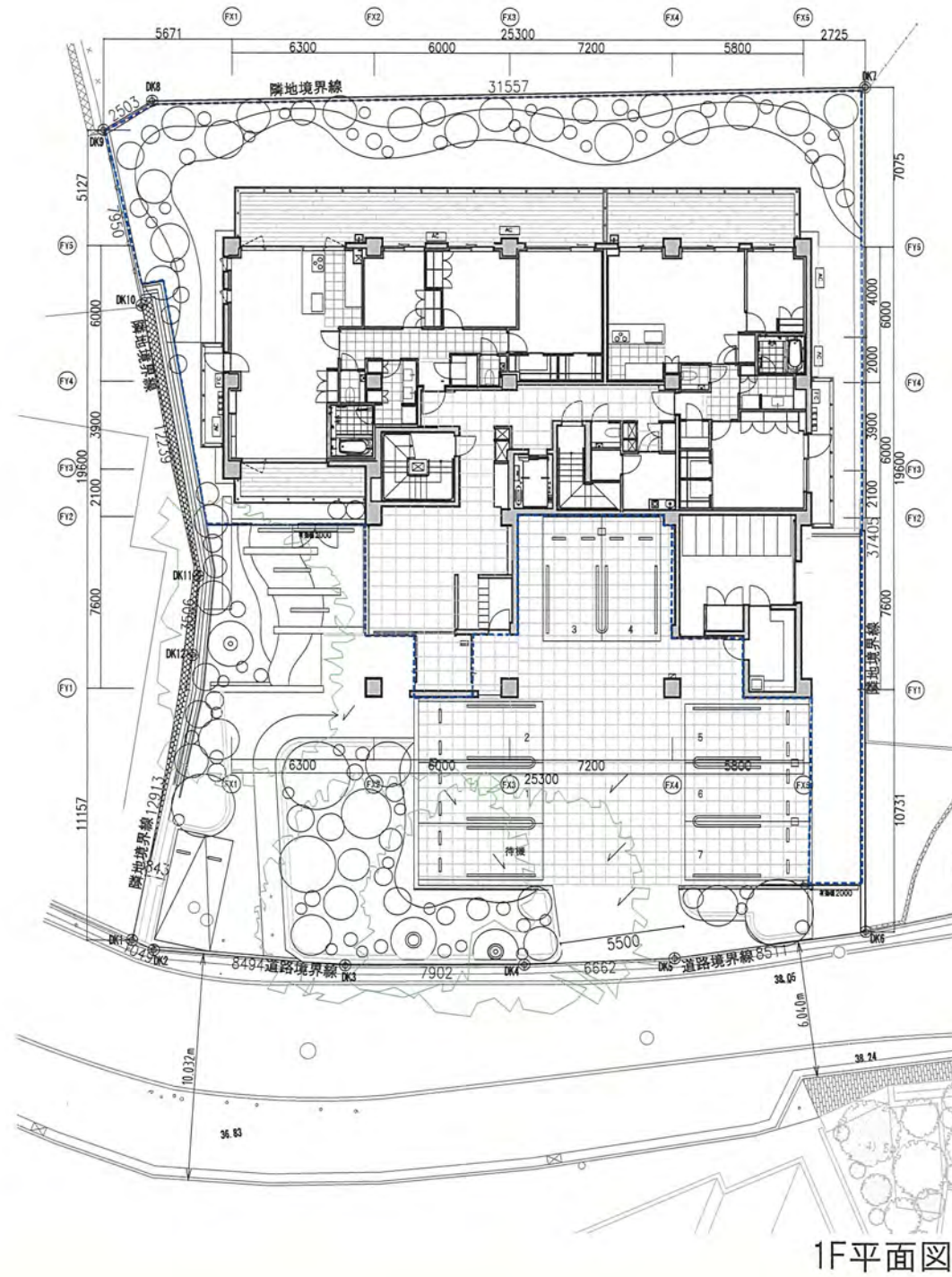


北側立面図

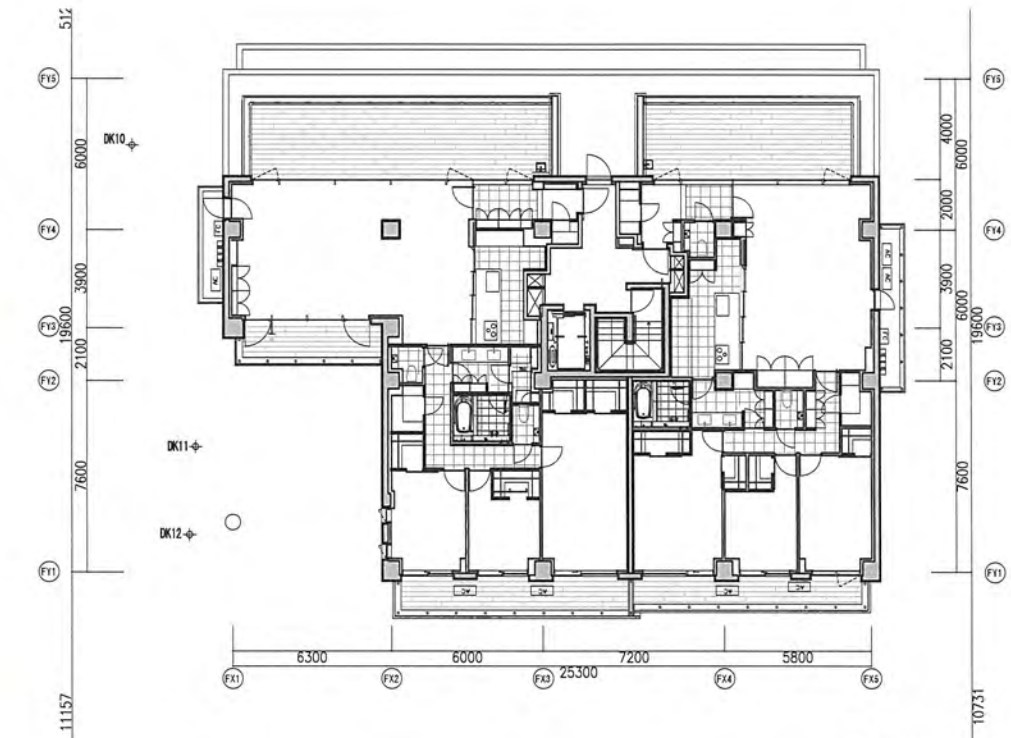


F敷地立面図  
S=1/200

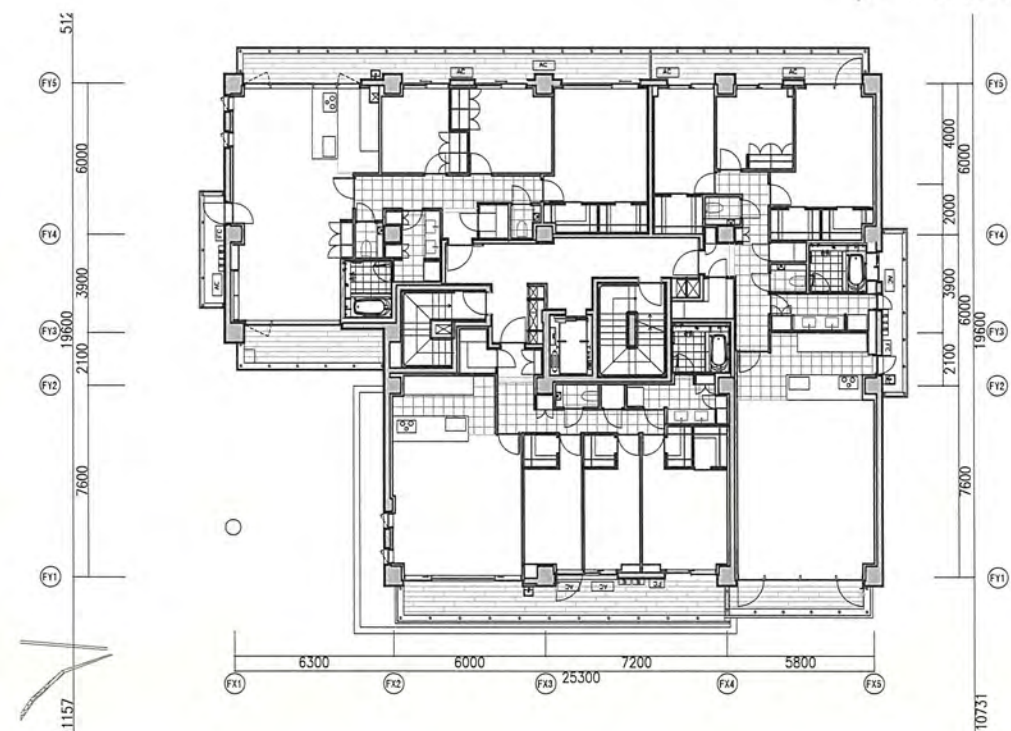




1F平面図



3F平面図



2F平面図